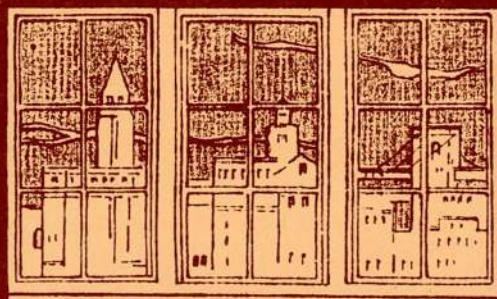


不置六年九月十四日(第三版)便物圖可
大正十三年六月一日發行(每月一號一日發行)

(第七輯第六號)



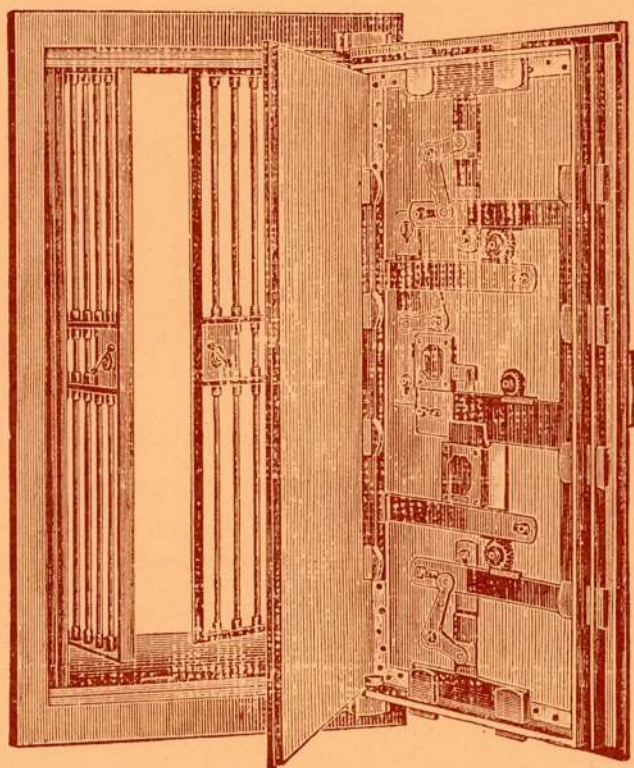
建樂社

第七輯第六號

日本建樂協會

大正三十三年六月一日

耐震 耐火 理想鐵扉の出現



金庫 金庫扉製造界の權威

工場
 東京第一工場 東京市京橋區佃島壹丁目
 全第二工場 全 深川區東元町
 京都分工場 京都市松原通り大宮西入
 營業所
 東京市京橋區岡崎町二丁目
 京都市松原通東洞院東入
 大阪市東區淀屋橋筋（道修町）
 神戸市楠町六交又點西

大谷金庫店

店主 大谷榮之介

顧問工學博士 細木松之介

獨逸人技師 ア・シューハルト

今後ノ高層建築ニ採用サレントス

高級昇降機

エー・ビー・シー

最近御採用先御報告

其ノ他	明治屋	内田ビルヂング	ブラナモンド社	村井銀行神戸支店	浅野物産	明治海運ビルヂング	神戸商船ビルヂング	松竹キネマ座	大學病院	泉尾土地會社	阪急電鐵	特許局	中外商業新報社	日本興業銀行	日本郵船	九ノ内ビルヂング十一臺
				一臺	一臺	四臺	四臺	二臺	二臺	二臺	一臺	一臺	一臺	四臺	八臺	一臺

現在ノ最大建築ニ使用サレ！

A.B. See!

ELECTRIC ELEVATOR CO.

220 Broad Way New York

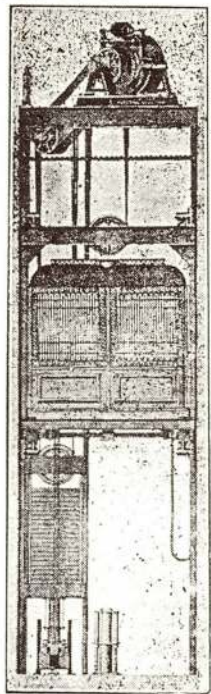
ESTABLISHED IN 1883

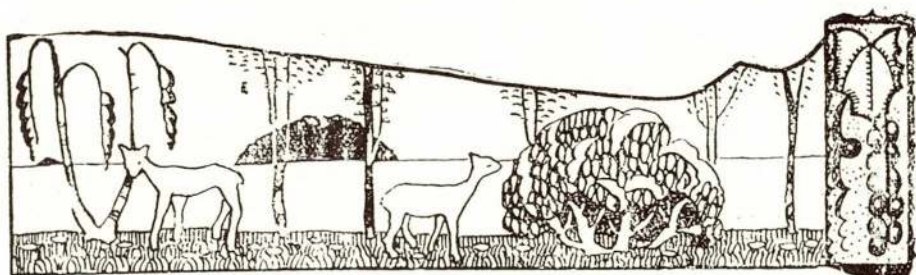
*Esteemed enquiries
solicited!*

東洋總代理店

内田商事株式會社機械部

東京 神戸 大阪





建築と社會 第七輯第六號目次

口 繪 株式會社三十四銀行德島支店

◆卷 頭 辭 『何以處群』

◆建築家の社會的地位

日本建築協會 副會 頭 工學博士 片岡 安 二

◆國家的大試鍊の後に於て 鈴置 良一 九

◆建築の自己震動 無漏 林樹 四

——地震と耐震建築(三)——

◆混凝土施工能率の鐵筋 混凝土結構の強度に及(其二) 八木幸次郎 一 九

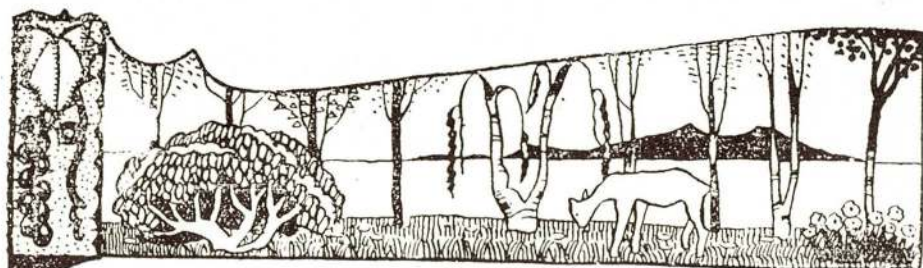
◆カリフォルニアの南 歐風住宅の内部裝飾(本年三月號より續く) 川村種三郎 三 五

宅 住

究 研

說 論





報會

錄漫

市都

◆「國際市」の實現 太田 寛吾 三

◆テベス東岸の一日 工學博士 天沼 俊一 三
——續埃及遊記(五)——

春陽會審查員

◆畫界に於ける新傾向(下) 齋藤 與里 四

◆建築家と活動寫眞館 池田谷久吉 四

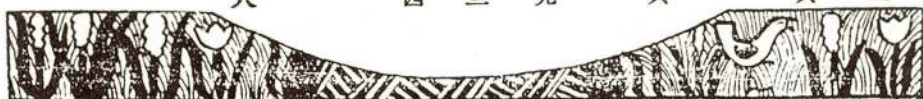
◆ペンの影を追ふて 水島與志雄 五

◆春の野から 偏 心 圓 六
——Mの言ひ草(續)——

◆スカイライト かうそん 六

◆煙の都より湖の國え 郊 邨 六

◆大日本建築協會五月中記事



GOOD

和洋家具の製作
室内裝飾の股工
其他一般木材加工

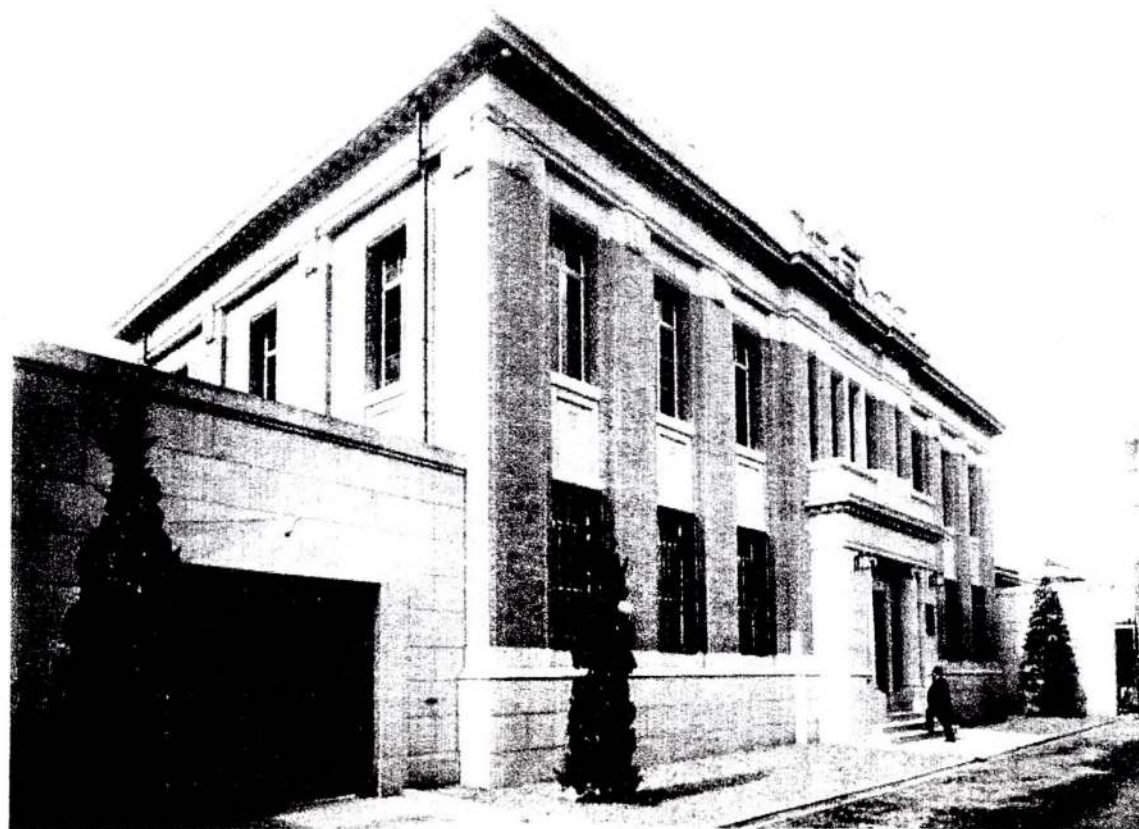
合資
社

内外
木工
所

支店
大阪府
大阪市
西區
南町
六丁目
七番
電話
四三〇
八〇番

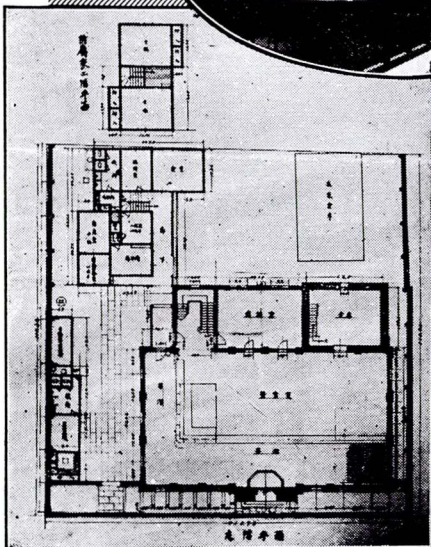
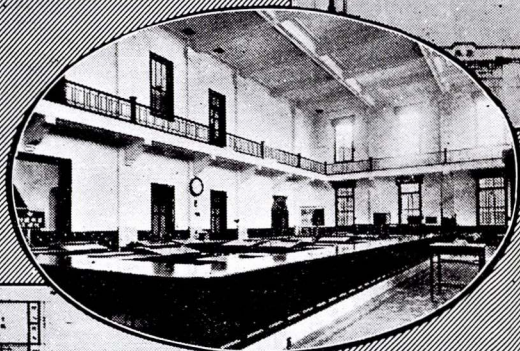
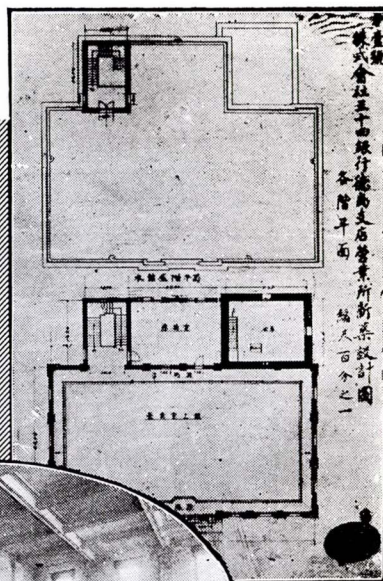
支店
大阪府
東區
北町
四丁目
目心
電話
四一七
三六番

FURNITURE



店支島德行銀四十三社會式株

東京
 株式會社五十四銀行總局支店營業所新築設計圖
 各階平面
 縮尺 百分之一



(室業營は央中) 二のそ

第三回造園講習會

來る六月十日より同十六日迄一週間大阪府北區堂島濱堂島ビルヂング内中山文化研究所に於て本會主催第三回造園講習會相開き候間希望の方は講習料を添へ來る六月九日限り左の事項御注意の上本會宛申込相成度候

- 一、氏名と共に住所、職業御記入可被下候
- 一、講習料金五圓(本會員は半額貳圓五拾錢。關西園藝會、日本建築協會々員は本會々員に準ず)、但し既納の講習料は場合の如何に拘はらず返付せず
- 一、講習料金の拂込は本會口座東京一二八三〇番になされ度、尙右拂込の節は通信欄へ必ず其旨記入あり度し
- 一、關西方面の申込は大阪市天王寺公園事務所内關西園藝會電戎七三六、振替大阪二五二一八番宛に被成度候

東京市外中澁谷七一七(振替口座一二八三〇番)

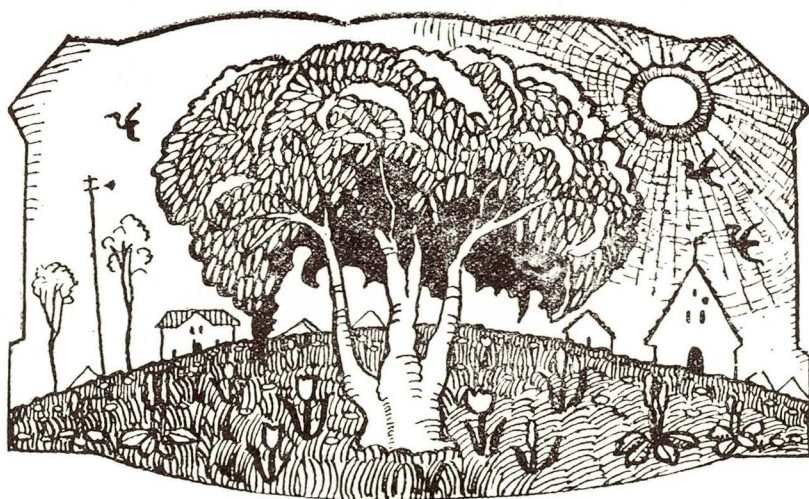
大正十三年六月 日

日本園藝會

講習科目、時間及講師名

一、庭園の様式、造園概則	三時間	東京帝國大學教授 原 熙
一、造 園 土 木	六時間	農 學 博士 寺 崎 良 策
一、造 園 設 計	六時間	都市計畫大阪委員會技師 大 屋 靈 城
一、家 庭 園 藝	四時間	農 學 博士 大阪府立農事試驗場長 三 木 泰 治
一、並木の仕立方及巨樹の移植	三時間	京都府立植物園技師 野 間 守 人
一、温 室 及 花 壇	四時間	農 學 博士 奈良女子高等師範學校教授 福 井 稔
一、公館とその周圍裝飾	二時間	奈良縣公園課長 坂 田 靜 夫

講習は毎日午後六時に始まり同十時に終はる。六月十五日(日曜日)朝より夕にかけ京都名園の指導説明



日	以	日	何
		不	以
無	止	爭	處
辨	謗	何	群



説

論

建築家の社會的地位

日本建築協會 工學博士 片岡 安
副 會 頭

1
大工の棟梁と木造建築、日本の古建築と其造作者、建築として進歩の遅れたる原因、進歩の最後に遺された我建築、建築の不進歩と震災の損害、建築と建築家に對する理解、建築家の權威と國立建築學會、大資本家の參謀たる建築家、社會の進歩を促す建築設備の發達、建築家の識見と資本家の活眼

從來、我國には、大工の棟梁が建築の總てを司つて、建築技術家なる者は無かつた。それは、言ふまでもなく、我國の建築は皆木造家屋であるから、家の殆むど大部分は大工がやるべきもので、石を使ひ、紙を用ひ、竹を宛る、と云ふものがあつても、それは、まことに少部分であつた。家の構造から仕上げまで、其の大部分は大工が占領して、所謂親方なる者が夫を指圖をした。従つて、建築と云ふものは、大工の棟梁に頼めば可い、それを利用し指圖すれば可い、と云ふ風にして、從來の建築は運ばれて來たのであつた。故に、今日我國に遺つた處の古建築物殊に佛教建築、神社建築、其の他の記念建築など、如何なる人が造つたのか判らない。大名或は分限者の命令指圖に依つて運ばれたかのように傳つて居るが、

今日まで遺つて居る國寶たる建築物が、唯、資本家や權力者の指圖に依つてのみ出来たと云ふことは、何としても想像され得ない。藝術的にも、建築術的にも、非常に優秀な技能を有つた者が之を造つたことは、間違ひないことである。けれども、今日、我々は、如何なる人が之を造つたかを知ることの出来ないものが多いのである。斯る事實は、今先きに私の申叙べた事を明に裏書して居るものだ、と謂つて可い。斯る國家的建築ですら、誰が造つたのか判らない、と云ふやうなことで、世の中の人達は少しも怪しまなかつた。況むや、普通の住宅、其の他實用的の建築に至つては、唯資本家の命令に依つて、それが運ばれ、大工の棟梁の引廻しに依て、是が出来るものだ、と云ふ風に考へて居た。是がために一面に於て、我國の建築が進歩しなかつたやうにも思はれる。一般の技術的方面、或は趣味的方面に於て、日本の文明の相當に進みつゝ來たのであるが、建築としては、比較的進歩が遅れた、と云ふことは、其の半面の結果である、と見て可い。

然るに、明治維新以來、我國の狀態は總てが一新され、建築と雖も世界的渦中に投せざるを得なくなり、世界的狀態にそれが運ばれなければならぬやうな運命になつたのであるが、如何なる譯であるか、凡ゆる文物制度は、國際的に大發展を遂げたのであるけれども、建築のみは、依然として、其の進歩が最後にまで取殘されたと云ふことは、私共の甚だ遺憾に感ずる所であつて、我都市文明の爲に、非常な損害を與へたのである。曩に、關東の大震災に依つて東京及び横濱の受けた數十億或は百億に近い所の損害は、假令物質的であつたとは云ひながら、餘りに大きい損害であるが、是等は、まつたく、東京或は横濱と云ふやうな都市の建築物が、現代の文明に後れて居た爲である。他の總ての文物制度は國際的に運ばれて居たけれども、都市の建設、即ち都市の建築物が、依然として、舊態の儘現代文明に遠かつて居た爲である、と云ふことを考へて見ると、我國の建築が國際的舞臺に後れたがため如何に大きい損害を受けたか、と云ふことに就いて、我々は甚だ遺憾に感ずるのである。されど、過ぎ去つたことは致

方がない。我々は、今後、我國社會の總ての階級が、建築と云ふものに理解を有ち、同時に、建築家と云ふ者は、如何なることをするものであるか、と云ふことをお考になつて、建築家の立場を了解され、之を利用し、それに依つて、堅實な都市の建築を造り、それと同時に、趣味ある建築を拵へ、我國の藝術をして更に十分の發達を遂げしむべき機會を、其の間に捉へると云ふことにしたいと思ふ。

之を、歐米各國の狀態に就いて觀む歟、表面的に觀察すれば、建築家の努力、或は建築家の計畫と云ふものは、左程社會に重きを置かれて居る如く見えないが、夫は、要するに、皮相の見解である。表面から之を觀れば、建築家の仕事と云ふものは、矢張り資本家の命令、又は權力者の考に依つて動くやうに見えるが、其の内實は決してさうではない。例へば、倫敦に於て、毎年、王立建築學會の總會を開くが、其の際には必ず總理大臣が出席をして、建築家の努力を特に懇請する慣例になつて居る。又亞米利加、殊に紐育、市俄古のやうな大都市になると、大資本家の一番重要な參謀官は、建築技術家である。建築技術家を參謀官の中心として、彼等は、種々の畫策を爲し、都市文明の刷新を企て、經濟活動の便利を圖つて居る。既に讀者諸君が、其の建築を以て世界一の大きい建築なり、世界一の經濟的建築なりとして御存じである所の「ウールオース」の建築であるとか、「ペンシルバニヤ、ホテル」の如きは、どうして出來たのであるか、是は、決して「ウールウオース」と云ふ個人の識見で出來たものでもない。是等の人々の參謀である所の建築技術家の計畫を鵜呑みにして、之を實現したに過ぎない。私は、之を以て、紐育や「ペンシルバニヤ」の建築が非常に進歩したとは言はないけれども、都市文明の發動を、如何に是等の建築が増進したか、と云ふことを稽へて見ると、社會が建築家の考を尊重し、之を利用し、其の實現をすることに依つて、如何に偉大なる利益を受けるか、と云ふことが、明白になるのである。又、見方に依つては學校、病院其の他凡ゆる現代文明の特徴として居る所の特殊の機關が、其の建築設備の發達に依つて、如何に社會

の進歩を促すことの偉大なるものであるかと云ふことは、私が此處に述べるまでもなく、讀者諸君が、新聞紙や雜誌の記事など、其の他の見聞に依つて御存じのことであるが、是等は、果して資本家の考に依つて實現するのであらうか。社會の富の程度が高まること云ふことに依つて實現するのであらうか。是はまつたく建築家の識見と、其の識見を認める所の資本家、即ち社會の活眼に依るのである。社會や資本家の眼が見えないで、建築家は、其の技能を以て、自分の命令に依り、自己の好きなものを造つて呉れるものだ、と云ふやうな古い見地で以て、建築家を見たならば、斯る日進月歩の社會的發達を實現することは困難である。

建築家に對する待遇
市俄古市の博覽會と
都市美、建築が與ふ
る新しい活力、科學
を利用し得る機會と
建築物、藝術の感化
力發揮と建築、我議
事堂改築と藝術味の
殊外、所謂大和魂の
表れと藝術的氣分、
建築家に對する理
解と多大なる期待

斯の意味に於て、私は、我國の状態を甚だ遺憾に考へて居る。例へば、政府の凡ゆる建設物を見ても、或は博覽會が開設されると云ふ場合に於ても、其他、都市の行政、銀行、會社の經營に於ても、建築技術家の智識を中心とせなければ、現代の經濟的活動、又は凡ゆる設備、應用科學の利用と云ふ事は出來得ないのであるが、我國では、それが寔に簡單に取扱はれて居る。官廳に於ては、建築家を技師と云ふ名前で扱ひ「斯う云ふものを造るんだ、技師を呼べ！」と云ふことで、技師が推參すると夫に命令をする。と云ふやうな形に於て、其の建設物が運ばれて居る。又、博覽會の開設に方つては、其計畫の中心を成すものは、建築家でなければ出來ないのであるが、我國では怎うであるかと云ふと、建築家は博覽會の一傭人である。

所が、ほんの一二の例を述べると、十七八年前であつたと思ふが、市俄古に萬國博覽會があつた時、今日では「チャクソン、パーク」となつて居る市俄古の海岸に中心を置いて、其の雄大なる博覽會場が出來た。其の博覽會場たるや、其の中には米國を中心として、世界各國の優秀なる工業品を蒐め、各種の物品が陳列、展覽されたのであるが、斯の博覽會が其の觀覽者に與へた所の偉大なる印象は何であつた

かと云ふと、其の内容に非ずして、其の博覽會の整備された外觀であつた、と稱へられて居る。亞米利加人は、斯の市俄古の博覽會を見る迄は、建築は實物なりと云ふ風に見て居つた。所が、斯の博覽會の規模を見、その建物が如何に環境を支配するかと云ふことを知つた時に、都市の中心地帯は、宜しく市俄古の博覽會を了解した其の頭に依つて美化されなければならぬ、と云ふことを考へたと云はれて居る。私は、其の博覽會に臨んだのではないが、我國でも、私共の友人が多數之を見て來たので、皆其の感に打たれたのである。それは、怎んなことであるか、と云ふに、其の建物の配合及び其の位置の取方、——所謂建築群の配置、又は建築の「スタイル」に就いて、其の環境に合ふやうなものを選んだと云ふやうな點に於て、都市の美と云ふものを、初めて亞米利加人が感得し、都市計畫こそ都市に於て最も重大なるものである、と云ふ事を感じたのも、是が最大原因を爲したと稱へられて居る。それは、都市計畫の「オーソリティー」であつて、其の當時市俄古の一少壯建築技術家であつた「バーナル」の案に依て、斯の博覽會場が全部設備され、其の結果を得たのであるが、是等は、一例に過ぎないけれども、建築家の技術が思ふ存分に發揮されると、社會の大多數に偉大なる感動を與へると云ふことは、争ふべからざる事實であつて、是は、少し我田引水論になるやうであるが、私共の日本に於ける貧弱なる經驗に依つても、東京或は大阪の一部に於て、建築家の技術が或程度まで尊重された其の結果、其の建物を中心として働くもの、或は其の環境に對して非常に偉大なる感化力を及して居る、と云ふ事は、是亦、争ふべからざる事實である。私は、それに依つて、其の都市民の藝術が向上した、と云ふやうなことを言ふのではないが、其の建物を利用せざる以前に比較すると、物質的に於ても、精神的に於ても、種々な意味に於て、それに接する人に對して、兎に角何等か新しい活力を與へると云ふことだけは明である。其の活力とは何であるか。是は、問題が非常に複雑になるから、今は差し控へるが、先づ經濟的には、非常な便利を得又、精神的には、清新の氣分を味ひ、或は、藝術氣分に於て、或る一つの「ヒント」を與へられ

ると云ふやうなことであらう。理窟は抜きにするが、兎に角其の環境、それに接觸する人に與へる所の感化と云ふものは、可成りに大きいものである。

又、一方から云へば、科學の應用の盛な時代に於て、我々が最も之を利用し得る所の機會は建築物の中に於て之を見出すのである。今日の建築物は、昔と全く其の趣を異にして、凡ゆる利便が其處に集中されて居ることは、實に驚くべきものがある。或は酷暑の際に涼氣を浴びながら、愉快に食事をすることも出來得るであらうし、又、酷暑の際に、酷暑のやうな氣分で食事をすることも出來得るであらう。若くは部屋の内部を徹底的に清潔に保つことも出來得るし、乃至は一分間も費さずして、百尺、二百尺の上に登ることも出來得れば、脚を運ばずして階上に昇ることも出來得る。是等は、一面に於て、人間を文弱にすると云ふやうな見方であるが、決して開うではない。之を、有効、有益、有意味に利用するならば、我々の生活を極度に幸福ならしむることが出來るのである。

又、一方から觀れば、建築は、所謂趣味的に扱ふべき運命を有つて居るものであるから、其の扱方に依つて、建築其のものは、藝術の發展期である。藝術が其の時代精神に副ひ、其の國民性に伴ふて、最も感化力を發揮すのやうに取扱ふのは、建築物であると云ふことは、今日我々が言ふまでもなく、昔から唱へられて居る問題である。例へば、議事堂建築の如き、或は、英吉利の國會議事堂が出來た際でも又は亞米利加の國會議事堂が出來たときでも、其の國會議事堂の完成に依つて、开が國民の其の時代に於ける藝術が著しく發揮されたと唱へられて居る。今より二十年前我國の議事堂が建設されんとする際僅かに二三十萬圓の建築であつたと思ふ、我國の建築技術家が集つて、之を機會に、我國藝術の一大回轉期を造るべし、と我々は叫んだのであるが、不幸にして其の際には、豫算の關係、或は設計者の選定困難と云ふやうなことで中止になつた。其の後、種々と變轉して、最近に第二の時機が來て、議事堂建築が今運ばれて居るが、此の議事堂建築が運ばれる際には、藝術論は莫く、議事堂建築は事務室なり、

西洋では云へば、「ウルウオース、ビルディング」や「ペンシルバニヤ、ホテル」にも及ばない程度のものである。故に、夫程力を入れる必要はない、と云ふ議論が勝を制して、ブランの懸賞募集をやり、多少の藝術慾を満足させたに過ぎない。夫が、藝術の發展期として取扱はれなかつたのは甚だ遺憾である。我國が立憲國になつた記念として、此議事堂建築の如きは、我國現代の藝術を發展さす好機として、之を造つたならば、非常に面白かつたらうと考へて居るが、是は、今述べたやうな事情で、單なる一箇の事務室なりと云ふ風に取扱はれたのである。併し乍ら、事務室であつても、趣味或は藝術と云ふ問題は、建築から取去ることは出来ない。建築と云ふものは、何時でも藝術の帽子を被り、衣を纏ふて居る。其の肉體、骨骼と云ふものは、應用科學に依つて組立てられ、實用の目的を達する爲に極度の研究を盡されて居るが、同時に、其の被る所の帽子、其の纏ふ所の衣は藝術であり、藝術に依つて彩られたものである、と云ふ所に、建築は一つの特徴を有つて居る。

人或は我國の建築を以て、大和魂の現れでなくてはならぬ、と云ふ話もあつたし、また、大和魂ではいかない、世界魂でなくちやならぬと云ふようなことを説く人もあるが、私は、其の孰れの是非は申さない。兎に角我日本民族の頭の中に有つて居る所の藝術的氣分が其處に現れ、其の建物にその着物を被せることが、即ち建築の實體であるから、讀者諸君は、此の建築と云ふものに就いて、唯、簡單に、所謂大工の棟梁に依つて夫が出来るものだ、と云ふやうな古い觀念を棄て、建築と云ふものは、さう云ふ簡單なものではない、都市文明の進展を基礎的に司る所の、非常に大事な計畫を要するものであると云ふ風にお考になつて、凡ゆることは、建築家と御相談になり、建築家の考を利用し、建築家の手腕に信賴されると云ふことが、現代文明に特に必要なものであると云ふことを申し上げたい。

×

×

×

國家的大試鍊の後に於て

鈴 置 良 一

國家的大災害の年も過ぎて帝都復興の希望に輝く年を迎ふるに方り、吾人建築家は勿論、社會全般の覺醒を要する事切なるを思ひ、又此好機を劃して一般都市の改善を始め、思想に、社會的施設に、或は生活様式に改革進展の實現されん事を切望して歎ます。我關西光鮪會に於ても昨年十一月社會に對する吾人の任務の爲、震災火災豫防研究會なるものが組織されて、幾等か社會に貢獻せんとする所あり。斯の秋に方りて、余も亦一文を草して諸兄の御叱正に備へんとす。文甚だ廣漠にして、冗長の觀あれども一通り順序を追ひて記し、而して特に感ずるところを強調せん。餘りに周知の事柄多しと雖も暫く寛容を得ば幸とす。

都 市 計 畫

國家財政の經理を考慮するは、重要問題なりと雖も、先づ第一に考ふ可きは財政を離れて絶對の立場より定められたる都市百年の計否永遠の計ならざる可らず。

(一) 地域地區の速成 都市各機關運用の便と公安衛生等の保全の爲用途、地域、即ち商業地域、工業地域、住宅地域等の制定を速に完成する事。こは震災火災防備にも重大の意義を有す。火災防備の爲に防火地區制定の急を要する事は何人も異存なきところなり。直接災害豫防に關係なきものに美觀地區あり。こは一都市の體裁上必要なるは勿論なりと雖も、亦都市を形成する分子なる個人の趣味教育の點より、一般能率の點より重要なるものなり。

(二) 道路公園河川等の完成 常時に於ては交通、運輸、衛生等の爲、非常時に於ては消防、避難、應急

物資の輸送等の爲、是等の適當なる擴張配置は、都市完成上定むべき根本問題たらざる可らず。

(三)交通機關 此處に云はんとするは、高速度機關の速成なり。是に伴ひて通信機關たる架空線類の地下埋設を斷行するは策の得たるものたらざる可らず。架空線類の地下埋設、地中鐵道の採用と同時に從來地下埋設物たる水道管、瓦斯管、上下水道等の一大整理を要するは論を俟たざるなり。

(四)住宅の整理 都市の膨脹に伴ふ最も重大なる問題は住宅問題なり。放縱なる膨脹に委せたる爲に生ずる交通上の困難は、最も多くの市街の經驗せる所なり。加ふるに、徒らに平面的にのみ廣延するに依つて敷地の極度の節約を餘義なくされ、従つて衛生上、交通上、災害防備上等に大缺陷を生ずるに至る、而も尙住宅難は緩和さるべくもあらず。茲に於て、中流以下の住宅に就いては、集合的住宅即アパートメントの如き經濟と利用とを満足せしむべきものを奨励するの必要あり。就中細民住宅の改善と整理は最も重要なものにして、其大部分は社會的施設の中に含まるべきものならん。

(五)水道 人の生活に一日も缺く可らざる水の供給は、今回の大災に見ても大いに考慮を要するところなり。第一に水道管の耐力と地震の破壊力との考究は、我國の如き大いに其必要あらん。次に大都市に於ては水源地を一ヶ所に止めず、又給水區域を適當に區分する事を良案とせん。他の方法としては、全市民の生命を水道にのみ委ねずして、飲用に適せる井戸を各所に常備するは萬全の策ならん。

建築物法

(一)法の精神の普及 一般建築思想の普及は、吾人の常に其必要を感じる所なりと雖も、刻下の急務として現在施行されつゝある建築物法乃至規則の精神を普く知らしめ、各建築者は進んで其適用を迎ふる如き空氣を醸成することは、都市建築物を向上せしむるに與つて力あることと信ず。

(二)市街地に於ける建築設計者の資格制限 斯の資格を適當に制限するは、一般建築思想普及と同時に

凡ての方面より都市の建築物を向上せしむる所以なりと信ず。之を消極的に觀れば、都市の美觀を害し又一般藝術教育上障礙となる如き建築物、或は内容貧弱、價值粗惡なる建築物の出現を減少せしむる所によりとす。

(三)非常設備 此處に言はんとするは建築物に附屬せる避難設備なり。常時殆んど其必要を感ぜざる程度の建築物に於て、此度の大災に方りては一ヶ所に數十人の死者を出したるが如き例あり。故に假令建築物法に制定なき場合と雖も、其建築物の性質、周圍の狀況等に依り信賴し得可き避難設備を設くるの必要あるが如し。

(四)建築物法乙類制定の要 現在の大都市にあらずして、數十年後に於て大都市となる可き運命を有つ小市街に對し、適當なる建築物法を制定して速に之を適用する事は、吾人の聲を大にして言はんとする所なり。市街をして無方針に膨脹せしめたる結果、交通上にも保安上にも、又外觀上にも如何ともなし難き大都市となり、初めて都市計畫乃至建築物法の適用をなす事の不利にして困難なるに比し、未だ大都市たるに先じて、適當の計畫の下に發展せしむる事の合理的たるは言を俟たざるところなり。

社會的施設

(一)消防機關 完全なる消火唧筒の充分なる設置、消防手の訓練、河川及消火栓の配置其當を得、且水量充分なる事等が、火災時に於ける最も重要事なるは明らかなりと雖も、此度の如く火災に先だつて激震の來る場合あるを以て、都市の或區域毎に非常用井戸を常備し、常時には撒水等に當つるは策の得たるものたるが如し。消防機關に伴ひては或巾以上の道路其配置宜しきを得ざる可らず。

(二)非常時に對する訓練と簡易生活の宣傳 非常時に對する訓練としては、時々ボスターの配布も一法なるが、種々の講演會を開きて各階級に普く警告する如きも良法と思考せらる。簡易生活の宣傳は時々

小展覽會を催し、而も成る可く各所に及ぼして、舊來の都市住居に適せざるが如き生活様式を改善せしむるの必要あり。注意すべきは、簡易生活と無味乾燥なる動物的生活とを誤らしめざる事なり。災害防止等の宣傳をなすに方りて、唯かゝる場所から火を失し易いとか、斯る場合に盜難にかゝるとかいふ事を知らしむるに止まるは消極的たるを免れず。望むらくは、公共的團體に夫々調査會を設けて日常些細なる事物に至るまで調査考案をなし、設備及生活様式の合理的改善を促進せしむ可き方法を講ずる事なり。斯る事は直ちに我都市財政の容さざるころならんも、斯る方針に向つて進む可き事を希望するものなり。

其 他 の 事

(一)工業地域外に於ける爆發性化學藥品の貯藏 此度の火災の原因中化學藥品の發火に基くもの多かりしに鑑みて、之等貯藏方法に適當の制限を設くる必要あり。

(二)商業地域内の住宅 我國舊來の風習に依る時は、大商店と雖もそれに接續して住居を構へ高價なる土地に不衛生、不安全を忍びて不合理なる建築をなす者多し。こは都市の區劃整理の上より、衛生保安の上より、相當の大商店以上は、商業を目的とせる建築と住宅とを全然別の場所に營む事を、奨励又は制限するを以しと思考せらる。

(三)工業地域と住宅 商業地域内の場合と稍趣を異にすと雖も、之又工場と住宅は成る可く分離せしむるに如かざるなり。

(四)災害と建築構造 各種の災害に對して最も奨励すべきは鐵筋コンクリート構造、乃至鐵骨コンクリート構造なる事は既に定説ある所なり。然れども、設計上の過誤、施工上の不備は豫想外の恐る可き結果を齎らすと明なり。高層建築に最も適當なる可き鐵骨構造に於て、鐵骨の被覆を不完全ならしめたる

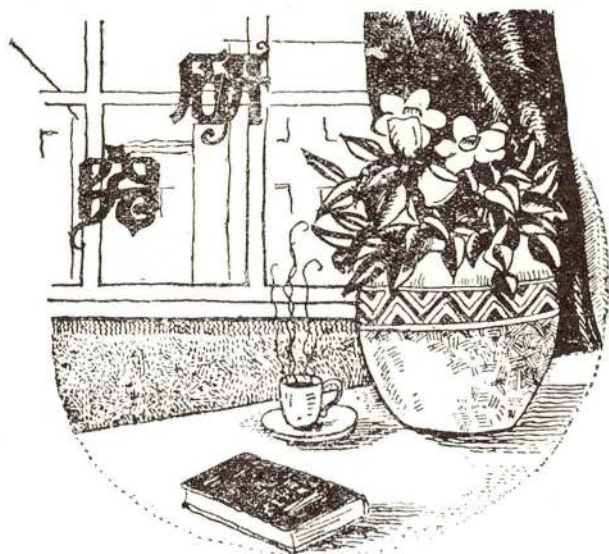
時、鐵筋コンクリート構造に於て地震少き國の方法を直寫し、而も鐵筋量を極度に節約したる場合等此度の災害にも其例有るが如し。

建築の實質を充實せしむる爲には充分の經費を要す。斯る經費を補はんが爲には、勢ひ從來稍もすれば徒費されたる裝飾方面に之を求むる事不可能ならざらん。從來の歐風建築には「あらずもがな」の裝飾餘りに多き事吾人の切に感ずるところなり。こは寧ろ建築専門家の心すべき事ならん。

住宅地域内に於ける建築は、他の地域内に於けると稍趣を異にするが如し。建築密度大なる地方に於ける住宅は、耐震性なると同時に耐火的な事望ましと雖も、建築密度大ならざる住宅地に於ては、耐震的な事は必要なれども必ずしも耐火的な必要なからん。住居者の趣味を考ふる時は、寧ろ木造住宅の方を探る可きにあらざるか。然りと雖もこは防火設備と貸金庫設備等完全にして相當生命財産の保證されたる場合を謂ふなり。

詰　　語

之を要するに、曩日の大災害は單に關東地方のみならず我國民全般に對する最も苦き試練なると同時に又得がきた教訓なりき。吾人は都市的に醒むるのみならず、生活的にも大に改革し、以て未曾有の天災を變じて將來の光明に接すべき動機となさば、現在の苦境も亦將來に於ける回顧の樂みとならんか。



建築の自己振動

地震と耐震建築

(三)

無 漏 林 樹

内外ビルディング、東京電氣工場の倉庫、其他の實例は以上の事實を示めして居る、従て鐵筋コンクリート構造はその全く剛強のものは、確に理想的建築であるが軟弱のものは建築物の最も危険のものであると云つても過言ではあるまい。

單に振動に抵抗する點では、鐵骨構造の方が安全である、少し位振動を與へられても、鐵骨の彈性のため龜裂を生ずる様なことはないから鐵筋コンクリート構造の軟弱のものゝ様に全潰する様なことはない。然し自己振動の大なるものは煉瓦布

壁に龜裂を生じ剝落するから何れにしても剛強なるものを欲する譯である。

以上を要するに彈性係數の大なる材料を用ひて自己振動の小さい建造物が耐震的に一番信頼し得ることになる、かく論ずると今後最も地震、火災に對して安全なる理想的の建築物構造法は、主要部を鐵骨構造とし充分繼手に注意し成可く筋違を多く用ひて架構を剛強ならしめ之にコンクリートを適度に被覆して、耐火的にし外壁は龜裂を避けるために鐵筋コンクリート壁とし、適當の位置の間仕切壁は鐵筋コンクリートで耐震壁を作り架構

の剛強の度を助長せしむることである。

自己振動の週期の長短が建物の剛強の程度を表はす尺度となるものであるとするならば、各種の建築物に付いて知つて置く工夫々の耐震強度を比較することが出来る譯である。

次に掲げてある表は、大森博士の測定された諸建築物の自己振動週期であるが、もし此度の地震前に各種諸建造物について調査が出来て居たならば興味ある問題となつたであらうが、不幸にしてその數の僅少に止まるのは残念である。

建築物自己振動週期表

建築物名稱	構造	高さ
丸ノ内ビルヂイソング	鐵骨	97尺
海上ビルヂイソング	鐵骨	88尺
郵船ビルヂイソング	鐵骨	97尺
有樂館	鐵骨	93.5尺
東京會館	鐵骨	79尺
日本興業銀行	鐵骨	98.5尺
内外ビルヂイソング	鐵筋コンクリート	60尺

測定時	東西	南北
竣工後補強	0.67秒	0.51秒
竣工後		0.45
竣工後	0.46	0.46
竣工後		0.61
工事中	0.72	0.54
工事中	0.42	0.43
竣工後	0.65	0.65

東京日々新聞社	鐵筋コンクリート	六階
神戸明治海運	鐵筋コンクリート	120尺
淺草十二階	鐵	骨 170.4尺

竣工後	0.31	0.23
竣工後		0.5
竣工後	1.08	1.14

今この表と此度の地震で夫々の建物の蒙つた被害とを比較して考へて見ると週期の大小と被害の大小とは大體比例して居る様に思はれる。即少しの被害もなかつた興業銀行の週期は、其工事中に於てさへ〇、四二一〇、四三であり、比較的被害の少なかつた海上ビルディングが〇、四五のに比して丸の内ビルディング有樂館等の被害稍々顯著のものでは〇、六七一〇、五一及〇、六一に増加して、被害の最も著しい東京會館或は内外ビルディング等に於ては〇、七二一〇、五四及〇、六五になつて居る、殊に東京會館は高さ七十九尺で他の高層建築より低いに係らず、その週期の長いのは剛強の度が貧弱であつたことは地震に依て、試験されなくとも明らかな事であつた譯である。内外ビルディングも高さ六十尺といふ餘り高い建築物でないのに、而も週期の成可く小さくなければならない鐵筋コンクリート構造であるに拘はらず〇、六五も

あつたことは實に危険であつた譯である、勿論あの建物が全潰したのは使用鐵筋が特殊外國製品であつた爲と計算方法に地震を考慮してなかつたためでもあらうと考へられるが、適當の手法と適當の材料さへ使用してあつたならばあれ程慘狀を呈さなかつたことと思はれる、郵船ビルディングの週期が〇、四六で海上ビルディングと同位にあるに拘はらず、見掛けの被害は之より甚だしいのは他にも理由があらうが其外部化粧被覆材料が、アメリカ製の柔い中空テラカタを使用してあつたためだろうと思はれる。

以上は此度の地震の結果歸納し得る僅少の例であるが亦前述の考を裏書するものである、即建築物の剛強の程度を判斷する場合に設計、計算の適否、巧拙、施工の良否等は勿論その重大の要素であるが、自己振動週期の長短も亦その一大要素たることは、此度の地震の結果から相當信じ得ること

になつた。

この點に關しては尙將來充分の研究と實驗を要するとであるが、然し今以上の事實より大體に於て結論を許すならば次の様などになるであらう。

他の一般條件にして備つて居る場合に鐵骨構造或は鐵骨、鐵筋並用の構造の八十尺から九十尺の高層建築物に於ては、其自己振動周期〇、四から〇、四五以下のものは、地震動の最大加速度二千秒々耗位の地震に遭遇しても安全であり、週期、〇、五より〇、六の間にあるものは壁、天井に龜裂を生じ週期、〇、七より一、〇にあるものは構造主要部に危険を及ぼし著しく構造拙劣のものは全潰する虞があることが考へられる、前述の通り鐵骨コンクリート構造に於ては彈性に乏しいから鐵骨構造と同一の安全率を得るためにはその振動週期は鐵骨構造に於けるものより小さくなくてはならない。

短柱と長柱

丸の内ビルディング、郵船ビルディング、或は東京會館等の建物は建物の比較的底部の一二階に

被害を蒙つて居るのに反して淺草十二階は、比較的上部の七階から上が倒潰したのは前者は短柱として後者は長柱として振動を受けたからである。大森博士は建造物の自己振動週期に依て短柱と長柱とを次の様に區別して居る。

即、短柱とは自己振動週期一、〇秒以下或は一、〇秒内外のもので長柱に屬するものは二、〇秒乃至三、〇秒の週期を有するものであると。

短柱に屬する建築物は地盤を固定點として振動するのであるから、地盤附近が最も被害を蒙る譯であるが、實際は地盤附近は至極剛強に出來て居るので反曲點は少し上昇して、地階或は二階附近が最も被害を蒙る様になるから高層建築では殊にこの附近を補強して置く必要がある。

長柱に於て危険の所は二箇所ある、即地盤から建築物に直接振動を傳へる基底部と、地上より建物の凡そ三分の二の所に起る、衝擊の中心附近である、然し實際に於て考へて見ると煙突なり、又は高塔なり、その基底部は最も剛強に作つてあるので被害を蒙るのはこの衝擊の中心近くであるか

ら寧ろこの點に注意して補強す可きである。

今試みに淺草十二階の折斷面を調べて見ると、丁度基底から三分の二位の位置になつて居るとが解る、十二階は最上部二階は尖塔になつて居るのでその主體と見る可きは下の十階までである、地震に依て折斷された面は七階の上部で地面より凡そ八十五尺の所である、又地盤から十階の露臺のハラベツトまで凡そ百三十尺であるから丁度八十五尺は百三十尺の三分の二の點に當つて居る。然し此處に考ふ可きは十二階の自己振動週期は

一、〇八秒で、大森博士の分類に依ると短柱に屬するから危險部は底部にある筈であつたが事實は之に反して長柱として破壊した事である。大森博士の説が間違て居るのか、十二階の方が間違つて七階から破壊したのか私の判斷するには餘り六つかしい問題であるが、短柱、長柱の分類が單に自己振動週期の如何に依るものでなくて、その建築物のプロポーションの如何にも關係して居るものであることが考へられる。

——(未完)——

戻
り
來
て
つ
ゝ
じ
漬
け
お
く
山
井
か
な

混凝土施工能率の鉄筋混凝土結構の強度に及ぼす影響

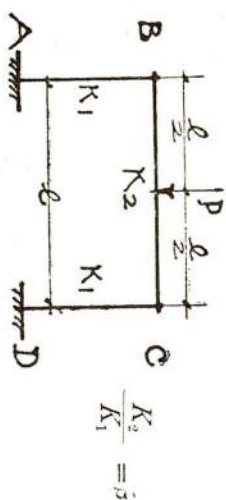
八木 幸次郎

本 論 (その二)

(2) 中央集中荷重を受けたる場合

此の場合の曲解率は等布荷重の場合より容易に求められ得可し。(拙著、鉄筋混凝土結構と耐震的計算法・参照)

a. 各部材の混凝土の弾性率一様なる場合



$$\frac{K_2}{K_1} = \beta$$

$$M_{AB} = \frac{Pl}{8} \cdot \frac{1}{2 + \beta}$$

$$M_{BA} = \frac{Pl}{8} \cdot \frac{\beta}{2 + \beta}$$

$$M_{BC} = -M_{BA}$$

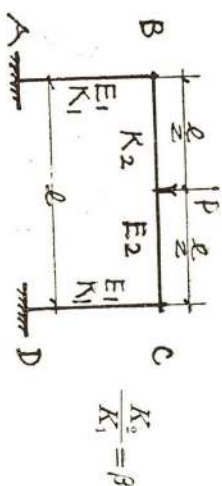
$$M_{\text{中央}} = \frac{Pl}{8} \cdot \frac{2 + 2\beta}{2 + \beta}$$

b. 梁の混凝土の素質低下せる場合

E_2 = 素質低下せる梁の混凝土の弾性率

E_1 = 柱の混凝土の弾性率

$$\phi = \frac{E_2}{E_1} \text{ 但し } \phi \text{ は } 1 \text{ より 少なり。}$$



$$\frac{K_2}{K_1} = \beta$$

$$M_{AB} = \frac{Pl}{8} \cdot \frac{1}{2 + \phi\beta}$$

$$M_{BA} = \frac{Pl}{8} \cdot \frac{\beta}{2 + \phi\beta}$$

$$M_{BC} = -M_{BA}$$

$$M_{\text{梁中央}} = \frac{Pl}{8} \frac{2+2\phi\beta}{2+\phi\beta}$$

c. 柱の混凝土の素質低下せる場合

E_2 = 梁の混凝土の彈性率

E_1 = 素質低下せる柱の混凝土の彈性率

$$\phi = \frac{E_2}{E_1} \quad \text{但し } \phi \text{ は } 1 \text{ より大なり。}$$

$$\frac{K_2}{K_1} = \beta$$

$$M_{AB} = \frac{Pl}{8} \frac{1}{2+\phi\beta}$$

$$M_{BA} = \frac{Pl}{8} \frac{2}{2+\phi\beta}$$

$$M_{BC} = -M_{BA}$$

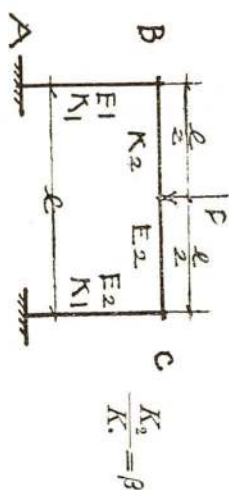
$$M_{\text{梁中央}} = \frac{Pl}{8} \frac{2+\phi\beta}{2+\phi\beta}$$

d. 一方の柱の混凝土の素質低下せる場合

E_2 = 混凝土の彈性率

E_1 = 素質低下せる一方の柱の混凝土の彈性率

$$\phi = \frac{E_2}{E_1} \quad \text{但し } \phi \text{ は } 1 \text{ より大なり。}$$



$$M_{AB} = \frac{Pl}{8} \frac{1-3\beta+9\phi\beta}{2+2\beta+11\phi\beta+6\phi\beta^2}$$

$$M_{BA} = \frac{Pl}{8} \frac{2+3\beta+9\phi\beta}{\quad}$$

$$M_{BC} = -M_{BA}$$

$$M_{CB} = \frac{Pl}{8} \frac{2+12\phi\beta}{\quad}$$

$$M_{CD} = -M_{CB}$$

$$M_{DC} = \frac{1}{2} M_{CD}$$

$$M_{\text{梁中央}} = \frac{Pl}{8} \frac{2+2.5\beta+11.5\phi\beta}{\quad} = 12\phi\beta^2$$

以上の公式にて β 及 ϕ に實價を入れ表示すれば次の如くなる。

曲 能 率		$\beta = 1$		$\beta = 0.5$		$\beta = 0.1$	
a の 場 合	M_{AB}	$0.338 \times \frac{Pl}{8}$		$0.400 \times \frac{Pl}{8}$		$0.476 \times \frac{Pl}{8}$	
	M_{BA}	$0.666 \times \frac{Pl}{8}$		$0.800 \times \frac{Pl}{8}$		$0.952 \times \frac{Pl}{8}$	
	M_{BC}	$- M_{BA}$		$- M_{BA}$		$- M_{BA}$	
	$M_{\text{梁中央}}$	$1.333 \times \frac{Pl}{8}$		$1.200 \times \frac{Pl}{8}$		$1.048 \times \frac{Pl}{8}$	
		$\phi=0.8$	$\phi=0.5$	$\phi=0.8$	$\phi=0.5$	$\phi=0.8$	$\phi=0.5$
b の 場 合	M_{AB}	$0.357 \times \frac{Pl}{8}$	$0.400 \times \frac{Pl}{8}$	$0.417 \times \frac{Pl}{8}$	$0.444 \times \frac{Pl}{8}$	$0.480 \times \frac{Pl}{8}$	$0.488 \times \frac{Pl}{8}$
	M_{BA}	$0.714 \times \frac{Pl}{8}$	$0.800 \times \frac{Pl}{8}$	$0.834 \times \frac{Pl}{8}$	$0.888 \times \frac{Pl}{8}$	$0.960 \times \frac{Pl}{8}$	$0.976 \times \frac{Pl}{8}$
	M_{BC}	$- M_{BA}$	$- M_{BA}$	$- M_{BA}$	$- M_{BA}$	$- M_{BA}$	$- M_{BA}$
	$M_{\text{梁中央}}$	$1.286 \times \frac{Pl}{8}$	$1.200 \times \frac{Pl}{8}$	$1.167 \times \frac{Pl}{8}$	$1.111 \times \frac{Pl}{8}$	$1.038 \times \frac{Pl}{8}$	$1.024 \times \frac{Pl}{8}$

		$\phi = 1.25$	$\phi = 2$	$\phi = 1.25$	$\phi = 2$	$\phi = 1.25$	$\phi = 2$
c の 場 合	M_{AB}	$0.307 \times \frac{Pl}{8}$	$0.250 \times \frac{Pl}{8}$	$0.381 \times \frac{Pl}{8}$	$0.333 \times \frac{Pl}{8}$	$0.471 \times \frac{Pl}{8}$	$0.454 \times \frac{Pl}{8}$
	M_{BA}	$0.615 \times \frac{Pl}{8}$	$0.500 \times \frac{Pl}{8}$	$0.762 \times \frac{Pl}{8}$	$0.666 \times \frac{Pl}{8}$	$0.941 \times \frac{Pl}{8}$	$0.908 \times \frac{Pl}{8}$
	M_{BC}	$- M_{BA}$	$- M_{BA}$	$- M_{BA}$	$- M_{BA}$	$- M_{BA}$	$- M_{BA}$
	$M_{\text{梁中央}}$	$1.385 \times \frac{Pl}{8}$	$1.500 \times \frac{Pl}{8}$	$1.238 \times \frac{Pl}{8}$	$1.333 \times \frac{Pl}{8}$	$1.059 \times \frac{Pl}{8}$	$1.091 \times \frac{Pl}{8}$
		$\phi = 1.25$	$\phi = 2$	$\phi = 1.25$	$\phi = 2$	$\phi = 1.25$	$\phi = 2$
d の 場 合	M_{AB}	$0.366 \times \frac{Pl}{8}$	$0.421 \times \frac{Pl}{8}$	$0.436 \times \frac{Pl}{8}$	$0.500 \times \frac{Pl}{8}$	$0.500 \times \frac{Pl}{8}$	$0.553 \times \frac{Pl}{8}$
	M_{BA}	$0.644 \times \frac{Pl}{8}$	$0.605 \times \frac{Pl}{8}$	$0.776 \times \frac{Pl}{8}$	$0.735 \times \frac{Pl}{8}$	$0.939 \times \frac{Pl}{8}$	$0.909 \times \frac{Pl}{8}$
	M_{BC}	$- M_{BA}$	$- M_{BA}$	$- M_{BA}$	$- M_{BA}$	$- M_{BA}$	$- M_{BA}$
	M_{CB}	$0.673 \times \frac{Pl}{8}$	$0.684 \times \frac{Pl}{8}$	$0.800 \times \frac{Pl}{8}$	$0.824 \times \frac{Pl}{8}$	$0.966 \times \frac{Pl}{8}$	$0.974 \times \frac{Pl}{8}$

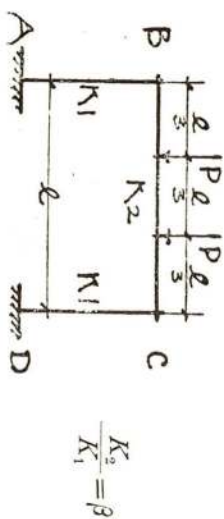
4

M_{cd}	$-M_{cb}$	$-M_{cb}$	$-M_{cb}$	$-M_{cb}$	$-M_{cb}$	$-M_{cb}$
M_{dc}	$\frac{1}{2}M_{cb}$	$\frac{1}{2}M_{cb}$	$\frac{1}{2}M_{cb}$	$\frac{1}{2}M_{cb}$	$\frac{1}{2}M_{cb}$	$\frac{1}{2}M_{cb}$
$M_{\text{梁中央}}$	$1.342 \times \frac{Pl}{8}$	$1.421 \times \frac{Pl}{8}$	$1.207 \times \frac{Pl}{8}$	$1.221 \times \frac{Pl}{8}$	$1.051 \times \frac{Pl}{8}$	$1.060 \times \frac{Pl}{8}$

之によつて見るに中央集中荷重の場合も、等布荷重の場合に比し大差なき結果を見らるるものである。集中荷重二個ある次の如き場合も結果は大差なきを以て、單に式を示すに止め次號よりは横力の場合及連續重層結構に移るべし。

(c) 等隔間に働く二個の相等しる集中荷重を受けたる場合

a. 各部材の混凝土の弾性率一樣なる場合



$$\frac{K_2}{K_1} = \beta$$

$$\begin{aligned} M_{ab} &= \frac{Pl}{4.5} \frac{1}{2+\beta} \\ M_{ba} &= \frac{Pl}{4.5} \frac{2}{2+\beta} \\ M_{bc} &= -M_{ba} \\ M_{\text{梁最大}} &= \frac{Pl}{4.5} \frac{1+1.5\beta}{2+\beta} \end{aligned}$$

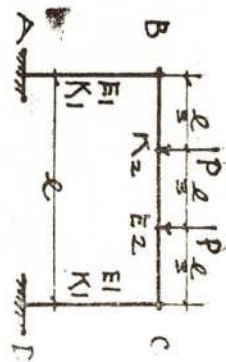
但し $M_{\text{梁最大}}$ は荷重と荷重との間全體に亘り一樣に生ずる。

b. 梁の混凝土の素質低下せる場合

E_2 = 素質低下せる梁の混凝土の弾性率

E_1 = 柱の混凝土の弾性率

$$\phi = \frac{E_2}{E_1} \quad \text{但し } \phi \text{ は } 1 \text{ より 小なり}$$



$$\frac{K_2}{K_1} = \beta$$

$$M_{AB} = \frac{Pl}{4.5} \frac{1}{2 + \phi\beta}$$

$$M_{BA} = \frac{Pl}{4.5} \frac{2}{\eta}$$

$$M_{BC} = -M_{BA}$$

$$M = \frac{Pl}{1 + 1.5\phi\beta}$$

梁最大 = 4.5

c. 柱の混凝土の素質低下せる場合

E_2 = 梁の混凝土の弾性率

E_1 = 素質低下せる柱の混凝土の弾性率

$\phi = \frac{E_2}{E_1}$ 但し ϕ は 1 より大なる公式は b の場合に

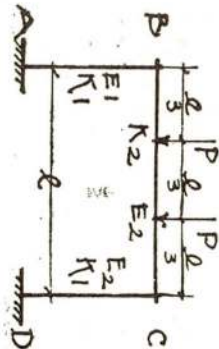
等し、單に ϕ が 1 より大なるに過ぎず。

d. 一方の柱の混凝土の素質低下せる場合

E_2 = 混凝土の弾性率

E_1 = 素質低下せる一方の柱の混凝土の弾性率

$\phi = \frac{E_2}{E_1}$ 但し ϕ は 1 より大なり。



$$\frac{K_2}{K_1} = \beta$$

$$M_{AB} = \frac{Pl}{4.5} \frac{1 - \beta + \phi\beta}{2 + 2\beta + 11\phi\beta + 6\phi\beta^2}$$

$$M_{BA} = \frac{Pl}{4.5} \frac{1}{2 + 3\beta + 9\phi\beta}$$

$$M_{BC} = -M_{BA}$$

$$M_{CB} = \frac{Pl}{4.5} \frac{2 + 12\phi\beta}{\eta}$$

$$M_{CD} = -M_{CB}$$

$$M_{DC} = \frac{1}{2} M_{CB}$$

$$M = \frac{Pl}{4.5} \frac{1 + 2\beta + 6.5\phi\beta}{9\phi\beta^2}$$

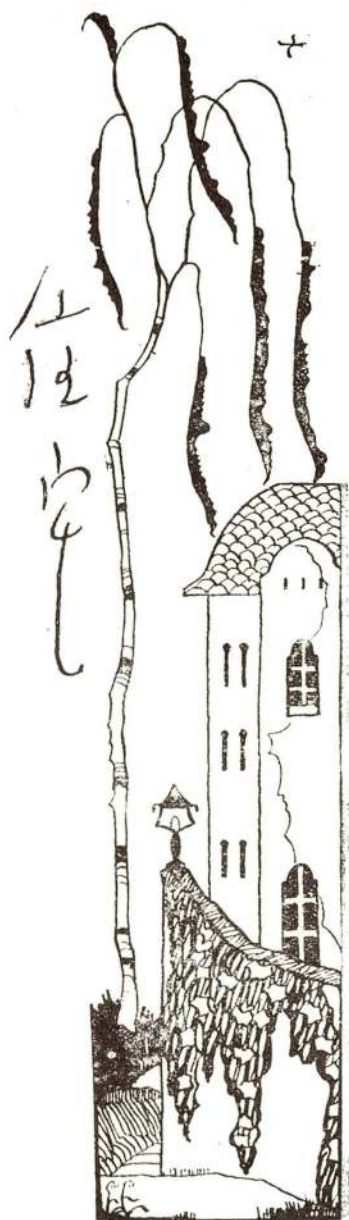
但し此の最大曲能率は圖に於て、B 點に近き方

の荷重の直下に生ずるものである。

。點に近き荷重の直下は次の如くなるを以て、梁の中央部に於て、此の二つの平均値となる。

$$M = \frac{Pl}{4.5} \frac{1 + 2\beta + 5.5\phi\beta + 9\phi\beta^2}{\eta}$$

(未完)



カリフォルニアの南 歐風住宅の内部装飾

(本年三月號
よりつづく)

川村種三郎

ドラペエリーの豊かな色彩

落ちついたグリーン、ブリュー、レッド、オレンジ或はイエローで模様化された花や葉を^{フタコイト}仔線でリネンに刺繍されてゐるドラペエリーは南歐風の家には最もよく調和する。バーカー商會は時々手

織の縁のついた古いサチンを使つてあることがある。

その他天鵝絨やブロードやシルクダマスクは高雅に装飾された部屋によく用ひられてゐる。

ケースメントウインドにはカーテンを取りつけないこともあるが、こゝには砂色の絹紗を使用す

ることが一般に喜ばれてゐる。パークカー商會ではイタリア風の家ではカーデインナルレッドをスベールイン風の家ではそれよりも濃いレッドのものを使用するのが最も効果があるとしてゐる様である。一般のプラスターハウスには豊かさゝ過かきの溢れた簡純な色合で織り出されてゐる實用品を推薦してある。

カーテンはアーチの見込の上部からロートアイアンで作られたグリルで釣られてゐる鐵製の竿からたれ下つてゐる。この種のカーテンは普通床近くまで曳きづらない程度に垂れさげてゐる。

イタリア風の傾向を多分にもつてゐる家に用ゐるタペストリーとして、古代伊太利圖按の模寫ものが一ヤード五二弗ほど販賣されてゐる。これ等は赤い小さい實のなつてゐる木とか、馬上の狩獵姿などを絹や毛でいれたものである。ドラペリーや其のほか重々しい色合の飾製品のある食堂の壁のパネルに、或は面白く出来上つたオツケイジヨナル、チエヤーをおいた時に、此れは最もよい効果を出す場合が多い。

フランス製の羊毛のタペストリーはイギリスを通してアメリカに輸入されてゐるがその代りにイギリスのリネンはフランスで封印されてイギリスに送り還され、それからアメリカに輸入されてゐる。これは言ふまでもなく品物に箔をつけるためである。グレイがかつたグリーンやメダリオンのシルクダマスク或はグレイやグリーンやブルユの調子の混つたイタリアン、レッドの大きい木の葉の模様のシルクダマスクはイタリア風の家によく用ひられてゐてよい調和を保つてゐる。

絹紗は普通一般にはプラスター、ハウスのカテナ用として非常に多く用ひられてゐる。

カリフォルニア、フアニチユア、カンパニーには絹紗で濃淡のあるブラウンの縞に成てゐるシャパン色、或はシャパンとローズと金、金とバート、オレンジとブラウン、或は他の色の取り合せなど二調子か三調子かの縞模様のあるものを販賣してゐる。この縞幅は普通は半吋であるけれども三吋幅の様な特別なものもある。

この種の絹紗は多く應接室や居間や廣間に持て

しては朝食堂用として使用されてゐる。寢室は非常にこまかい、一寸見れば縞の様に見える八角形になつてゐる上品なネットか、またはグレナディンを使用してゐる。

種々な床の仕上げ

南歐風の住宅の床敷の問題は言ふまでもなく各個人の趣味性と値段の問題とで裝飾家によつて決定されるのである。バーカー商會にはバーセロナから來る手紙のラッグの立派なものを販賣してゐるが、此のラッグは最近に製作し始めた純羊毛のもので植物性の染料で充分に染められてゐる。この地合は支那緞通に似てゐるが、毛は聊か長くて、毛は充分丁寧には刈り込まれてゐない。圖按はスベーン風を取り入れたもので圓や六角や、その他の幾何學模様を表はしてゐる。

スパニッシュ、ラッグの本場は、ブリューとブラウンの種々な取り合せと、ごく明瞭な調子をもつてゐる。それは支那緞通と色彩の調子はほとんど同一である。

此等のスパニッシュ、ラッグは勿論スベーン風の家に使用すれば最も調和のよいものであるが、値段の點では美しい支那段通を使用するのと同様、高くかゝるのである。

多數の内部裝飾家はオールレッドやダークブリュやソクトゴールドの豊かな落ちつきのある調子のセニール、ラッグを推稱してゐる。

スベーン風の住宅の床は屢々サンド、ストーンや落ちつきのあるタイルを張り、セニール、ラッグを敷いてゐるが、この方が奇麗なけば、いいラッグを敷きつめたよりはよほどスベーン風の住宅の氣分が出る爲めに一般には好評である。

立派なオリエンタル、ラッグは普通一般の住宅には非常に不經濟なものである上にその色彩はスベーン風の家具とは充分調和し難い點がある。

平坦なブラスタールの壁は色彩豊かな、ドラベリーや家具類を必要とするけれども、オリエンタルラッグはかへつて飾りけのない平調な家具類を必要とする。併し東洋風の豊かな色彩のラッグとスベーン風の平調なラッグとを場所々々によつて

使ひ別けをするときは、南歐風の住宅では屢々よい効東を擧げる場合がある。

家具の廣い分類

カリフォルニアの南歐風の家の内部裝飾について大體二つの相違した意見がある。

カリフォルニアに住んでゐる人々は建築の外觀も内部の裝飾も共にスペーインの百姓屋をモデルにしなければならぬと強硬に主張するのを屢々聽くのである。この主張をする人々は

『カリフォルニアに住んでゐる我々の現在の狀態は室内裝飾を全然スバニツシュ、スタイルに依つてなし遂げることが充分に出來得るのであるから我々は美しい古いスペーインの椅子を（假令それが多少不自由であつても）配置して出來得るかぎりスペーインの調度品を集めなければならぬ。もしそれ等の家具類が美しい滋味勝ちのものであれば、それに必要な滋味と豊かさとは壁掛やクツションで補へばよい。』

と言つてゐる。併し一般にはスペーインやイタリ

アの建物の内部は我々が考へてゐる程に親しみもなければ住み心地もよいものでないと言はれてゐるから、

『スペーインやイタリアの住宅の部屋部屋は非常に冷たく、親しみ難い氣持がする。だから一般のアメリカ人は恐らくものゝ一週間もその内で暮してゐることが出來なからう』
と言つた一人の裝飾家の言葉に賛同する人々が多いのである。

それが爲めにスペーインやイタリアの昔しながらの民家の單純さ、廣々とした氣持を捕えて、同時に現存のアメリカ人の實生活にピッタリと合つて氣分に慰安と満足と便宜とを得ることの出來る完全なものを造り出すのに努めてゐる。

一般に南歐風のカリフォルニア住宅にはイタリア風の家具は、スペーイン風のものよりも種々な點で適してゐる様である。スペーインの古い家具は面白味のあるものは多いけれども「ぎこちない」點と餘りに重々しく感ずる點とで、アメリカ人には一般向きがしない様に思はれるが書齋などは卓

子やベンチや書棚や机などはスペーイン風の取り扱ひ方をすれば、南歐氣分に富んだ非常に面白い室を造ることが出来るのである。また部屋の廣さが充分ある場合には一二脚のスパニッシュチェア一をつけ加へておくときは部屋全體を引き締めてよい結果を得ることがある。併し普通一般のアメリカ人の日常生活には布張りの椅子と、飾棚と、机とそして家族一般用の卓子を便利よく部屋に配置した上、満足に食事し讀書し喫煙することが出来るればそれで充分なのである。

數軒の商館はイタリアとスペーインから本物の家具類を輸入してゐるがその内一部は古いもののもので其の他多くは古いものを模造したものである。併し輸入物でなくともアメリカでも歐洲物を忠實に模倣したものも多數に製作してゐるし、イタリアやスペーイン風の加味されたものをも盛んに作り出してゐるのであるから、どんな點ででも不便を感じることはない。

カリフォルニアの家具小賣商は時々スペーイン風の家具と言つてイギリス風のを賣りつける

様なことがある。併し純イギリス風のものとはとにかくイタリア風とイギリス風とを非常に調和よく取り入れたものは南歐風の住宅の部屋にはまた一種の面白味を與へるから屢々これは使用されてゐる。そのほかフランス風の椅子はイタリア風の部屋には非常によく調和することがあるが、スペーイン風の部屋には思つたほど面白い効果がない場合が多い。

スペーインやイタリア風の寢室には此頃アメリカ人によく用ひられてゐる小型の家具を配置してゐるから、自然寢室は普通一般には近來のアメリカ人の考へ通りに仕上げられてゐるのである。

豊かな南歐の氣分

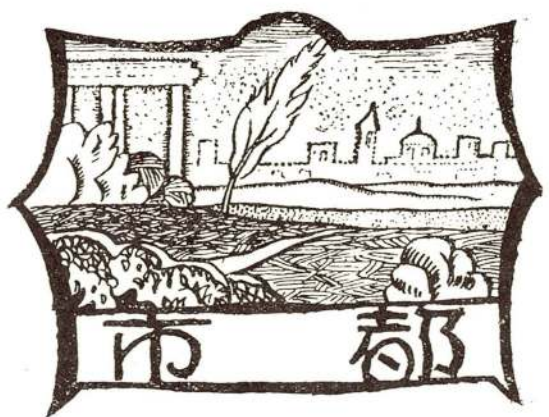
種々な大きさのスペーイン風のテーブルの上に置いたロートアイアン製の裝飾品は、周圍に微妙な面白味を與へるから一般に推奨されてゐる。此れ等は裝飾品として現存の日常生活の上からも非難される點もなく、古代のスペーインの氣持を出すには最も適したものである。

内部裝飾家の内でも南歐風の住宅には——イタリヤ風のものには特にそうであるが——豊富な色彩を使用することを好んでゐる人々がある。此等の人々はスペーインやイタリヤ風の家具にデロケイドを掛たり其の外種々の豊かさを感ぜしめる品々を立派な手際で使用してゐる。併し家具類に總をつけたりすることは念を入れ過ぎて、コマゴマし過ぎる氣味があるから南歐風の部屋に置くものには、特に望ましくないものとされてゐる。總や縁取りやこの種の他の裝飾は勿論立派な古いスペーインやイタリヤのものにはないことはいけけれども、アメリカ人が自分達が住む爲めに建てゝゐる住宅には、南歐風の單純さを補つてゆく適度の裝飾以外のものは結局蛇足となるにやまゐるのみである。

バーカー商會では種々な恰好と大きさ（その内には四角と長方形のものが最も澤山にありが）のテーブル掛の面白いストツク品を持つてゐる。此れ等の古いデロケイドはスペーインで珍重されてゐたものを戰爭中に買ひ上げて來たのである。或

るものは金地や晒さない生地、まゝの絹地に明るい調子で草花を刺繡し或る物は暗黒色の塊の様な感と與へる長方形のテーブル掛と四角いテーブルに長く掛けて、昔しスペーインでは丁度此のあたりに立つてゐたと思はれる葡萄酒の瓶と、ワインブレッツドの平たい箱の代りに、今のアメリカでは花瓶が靜かに置き据へられてゐる。

或内部裝飾家はブラター、ハウスの部屋々々に鏡をとりつけることを推奨してゐる。これは鏡の額縁がそれぞれの部屋に豊かさ、落ちつきとを與へながら全體には單純さと、高潔さの感を起さしめるに効果があるからである。又或は裝飾家は南歐風の部屋——特にスペーイン風の部屋の時計の位置を決めるのは非常に六ヶ敷いものだと信じてゐる。實際古いスペーインの時計は非常に粗末なもので、彼が見たものゝ一つも古いウォルナツトで作つた高さ一八時に幅二八時の箱の恰好をしたもので、床の上に置く様に出來てゐたと言つてゐる。普通南歐風の住宅に置くものは、南歐風に仕上げた單純な品位のある大型のものである。小さい部屋一つでも破綻のない様に裝飾する爲めには内部裝飾家は一般に顧みもされない様な極く些細に思はれることにでも、常に知れぬ注意と苦心をしてゐるのである。（丁）



『國際市の實現』

太田 寛 吾

はしがき

『國際市』について、いまだ一二断片的の紹介があつたのみで、その他は寡聞に

して知らない。しかも、これ等の紹介は、單なる紹介に止まつてゐたのと、『國際市』それ自體が極めて空想的のものであつて、如何に最負目に見ても、これが實現しやうなごとは、まつたく思ひもそめなかつたことである。それほどこの計畫は現實離れのした、學想的ともいふべき企てである。

従つて、計畫發表當時は勿論、今日においてさ

へも、おほかたの人達はよほどの疑念をさしはさんである。すなはち、計畫の基礎をなすところの根本思想に對しては、眞面目な現實として稱讃されながら、肝腎の計畫そのものに對しては、實現されない單なる理想であるとい見られてゐる。甚だしきは『痴人の夢』として、冷評されるぐらゐである。

然るに、この國際市建設の大計畫は、着手してから二十年、立案を終つて、發表してから十餘年を経た今日、いよいよ近く實現しやうといふ機運に到達したのである。内容は著しく改善され、現實化され、計畫者は異つてゐるけれども、その趣旨目的においては、いささかも變りはない。

それは恰も一九三〇年、白耳義政府において、

ブラッセルに開催せんとする『萬國博覽會』によつて、眞實に具體化せんとしてゐる事實である。最近、國際協會同盟會及び國際都市同盟會(L. Union International Des Villes)に於るポール、オートレー氏(Mr. Paul Olier)の發表した報告書による時かなり詳細に、確的にこれを立證することが出来るやう。『この萬國博覽會は、國際都市を創設する絶好の機會として、極力永久的國際都市におし進めんとする、大計畫を含んでゐる』と氏はかう聲明してゐる。

この時にあたり、私は常識的考察を離れて、正直にこれ等計畫の概要を摘記し、一般の参考に便しやうと思ふ。

一

國際市(The International City)とは、國際的世界中心都市(The International World Centre City)の略稱である。そして、その主唱者は現在伊太別人として、羅馬に居住してゐる彫刻家ヘンドリック、クリスチャン、アンデルゼン氏(Hendrik Christen Andersen)氏である。

氏(Christian Andersen)である。氏は一九〇三年頃から國際市の建設計畫をたて、佛蘭西政府の建築技師エブラール氏(Hebrard)等四十名の同好専門家の協力を得て設計し、九箇年研究を積んだ結果、一九一二年その立案を終へ、『世界交通中心の創設』(Creation of a World Centre of Communication)といふ著述を發表した。この『世界交通中心の創設』は完成の翌一九一三年各國の君主、大統領及び大學圖書館等に寄贈された、極めて美装の大著述であつて、其寄贈に際しては『本書提案の計畫に相當の考慮を拂ひ、その紹介宣傳に助力を與へられたい』といった意味の書簡も添えられてゐたので、各國では配本當時かなりの反響を與へたらしかつたしかし、翌年から大戰亂が勃發した爲め、暫時そのまゝとなつてゐたところ、氏はこの大戰亂を眼前に見て、殊更その計畫に對する熱心と度を高め、戰亂の絶頂に達した一九一六年十月、再びその計畫宣傳の印刷物を作つて、これを各國に頒布したのであつた。當時、敵愾心に燃えてゐる各國民中にも、或る一部の識者はやうやく慘禍の瘡痍に氣

づきそめてゐたので、この宣傳は以前にもまさる大きな反響をもたらし、研究する人々の數をさへ加へて來た。

アンデルゼン氏の『國際市』建設の目的は、氏が藝術家である關係から、最初は『古來各時代の文明が、夫々その時代の代表的記念物を遺してゐるやうに、現代文明に於ても、何か一つ後世にその代表的記念物を遺したい。それには藝術品中最も大規模にして、最も有意義なもの、即ちその時代の藝術技能を綜合集中した、一大都市を建設するに超したことはない。そこで、現代の藝術と科學とを傾注して、世界の中心都市といふ意味で、所謂『國際市』を建設しやうではないか』といふ藝術的立脚の下に計畫されたものであつたらしい。

然るに、後には、此單なる記念碑的裝飾品の創設にあきたらず、竿頭更に歩を進めて眞の大目的に向つて邁進した。すなはちアンデルゼン氏は、『國際市をして『世界交通の中心』(World Centre of Communication) ならしめたいといふのである。

しかも、この場合における交通は、單に經濟的交通を意味するばかりでなく、寧ろ精神的交通を主眼としてゐることは、一九一六年十月發表した趣旨に『現戰亂は如何なる國家も自足的(Self-Sufficiency)ならざることを示した。協力(Collaboration)が戰爭においても、平和においても、絶対に必要なことを示した』と記してゐるに見ても明かに首肯されるであらう。

事實諸國の協力によつて、人類全體の福利増進の爲に、共同事業を經營するとは當然のことである。近年各種の國際會議が頻繁に開催されるやうになつたことも、この目的達成の爲であつて、恒久の平和を期することは、是を措いて他にない。従つて、國際會議は今後一層頻繁に行はれるであらうし、提議される問題も段々複雑になつて來るであらう。かうなつて來ると、倫敦、巴里、紐育、海牙といった風に、一時的に會合場所を決めることは、單に不便であるばかりでなく、國際的見地からして、大なる目的を達する所以ではない。どうしても、各國の知識、思想其他常に相接觸し

相交通する『各國代表者の恒久的集會所』(Permanent meeting ground for representative of the nation)を必要とする。いづれの國にも專屬せざる純中立の一都市こそ、眞に國際協力を促進し、世界恒久の平和を保持するものである。そして、それは所謂『國際市』である。

アンデルゼン氏は、大體においてかういふ趣旨の下に『國際市』の建設を計畫したのであつた。

二

アンデルゼン氏の設計した『國際市』は、市街の區分、交通の系統、主要建物の形狀、位置から暖房裝置のこごきに至るまで、極めて周到な計畫が施され、その圖案と説明とは、實に微に入り細に亘つてゐる。こゝには單に國際市といふものの性質、目的を判然せしむれば足りるのであるからその一斑のみを記して、詳細なる組織、設備等は他日に譲ることとしやう。

國際市には、おほよそ三つの中心點がある。すなはち『學問中心』(The Scientific Centre)『藝術中

心』(The Art Centre)『體育中心』(Olympic Centre)これであつて、此三つを一つのグループにしたといふことは、自らアンデルゼン氏の國際市創設の目的で判るではないか。就中『藝術中心』の設計に至つては、氏が藝術家であるだけに、最も力を注がれたものであり、『體育中心』も亦かなり詳細に設計されてゐる。しかしながら、私達の最も興味を惹くものは、その主目的たる『學問中心』でなければならぬ。これは他の二つの中心よりも、より以上にその目的に奈邊にあるかを知ることが出来るからである。左にその主要建物を掲げて見やう。

その第一は『國際會議館』(International Congress Building)であつて、これは更に『農業運送館』(Agriculture and Transportation)『電氣發明館』(Electricity and Invention)『醫學衛生館』(Medicine, Surgery and Hygiene)『法律刑事學館』(Law and Criminology)四つに區別されてゐる。これは、國際市の主要目的が國際會議の常設地とする趣旨から、最も國際會議の問題となるべき事項を農工醫

法に四大別し、常事の如きは法律の部に屬せしめ
其他の缺如事項もこれに倣つて、大同に従ひ配屬
せしむる意嚮に外ならない。

その第二は『世界圖書館』(World Reference Library)で第一の各會議館にそれぞれ設けられた圖書室に必要な參考書類を備付けたもの、外、更にこの獨立の圖書館を設けて、國際解決の參考資料を網羅し、一般に利用せしめやうとするものである。

その第三は國際裁判所』(International Court of Justice)である。所謂法律の國際的統一を實行するために、國際會議館中に法律部を設け、國際立法機關たらしむる傍ら、國際司法を掌るためにこれを設置するもので、その内容は二部に分ち國家間の訴訟を裁判する國家部、國を異にする私人間の訴訟を裁判する個人部から成るのである

その第四は『國際銀行』又は『國際手形交換所』(International Banker Clearing House)であつた、
アンデルセン氏は『國際市』を以て直に世界金融の中心とするとは考へてゐないが、而し、各國金

融界の連絡調和を今一層圓滿ならしむるやう、研究と實行を進める必要があると説き、その機關として國際銀行又は國際手形交換所を設けたいと主張してゐる。

その第五は『宗教院』(Temple of Religions)である。これは單に世界的宗教中心を設けたいといふので、決して現在の諸宗教に干渉したり、別に世界的宗教を興さうといふ意味は含まれてゐない。それは、その設備の名稱が(Religions)と複數を示してゐる點から見ても想像されることであらう。古來、宗教の相違が屢次民族の平和を阻害し、戰爭の原因となることが稀れでないのに鑑み、世界の諸宗教の充分な比較研究を行ひ、各代表者が絶えず連絡を執り、一堂に會して胸襟を開くならば相互に自地宗教の根本精神が諒解され、禍を招來するやうのことはなくなるであらうといふ趣旨である。

× × ×

テベス東岸の一日

—續埃及遊記(五)—

工學博士 天 沼 俊 一

十月二十七日

(金曜、好晴)

ルクソルの町からカーナツクの堂迄つと二哩位だから、歩いてても左程時間もかゝらず、其上町の工合等もよく見えるから其方が都合がいゝ、併し案内人は頻りに馬車を勧めた、同じ馬車でも印度の一部で用ゆる様なTongaかEke位のものなら知れてゐるが、上等のVictoriaだから費用の點が少し心配でないでもない、併し初日から吝嗇坊だと思はれるのも不得策だから、相當に金のありそうな顔をして、『うん、馬車にするがよからう』、とやつてさう決まつた。

そこで昨夜から註文しておいた辨當と炭酸水とを積み込み、午前九時威風堂々(?)宿屋を出かけた、總ての點に於いて張圪より大分に上景氣であ

る。巾は狭いが我國のよりは遙にい、道路を北に向つて進むと、やがて右側にある大きな建物が眼についた、きいてみたら米利堅が經營してゐる女子寄宿學校だといつた、こゝには同國人の布教團があるので、其仕事ださうな。どうも米利堅は油斷がならん、金があるに任せ何度も埃及へ遠征隊を送り、砂つばらを穿くり返し、出たものを國へ持つて歸り、博物館へ並べておく。時には墓全體をつくり其儘館内へ建てたのさへある。今だつて紐育の中央美術館の埃及室は大したものだ、あの調子だと今に英國博物館を追ひ越すだろう。その上布教團を派出したり學校を建てたりして少しづつ胡麻化するのだらう、癪にさわるが指を銜へてみてゐるよりほか仕方があるまい。

不圖氣がつくと道の兩側にスフィンクスが並んでゐる、これが即ちAvenue of Sphinxである、もう來たかと思つて前方をみるにPropylonがある、間もなく馬車はこゝで停つた、これは希臘羅馬時代の王Euergetes I.の建つるもので、漸く前三世紀のものである。此門を入ると直にKhons(Khonsu)堂の大門(Pylon)がある。序に書いておくが、プロバイロンは背高き門で、バイロンは丁度其兩脇に重厚な梯形の大きな塔がついたものである。時としては兩語同意に用ひらるゝこともある様であるが、こゝでは(以下これに倣ふ)右の様に分けておく。

實際、私は生れて初めて實物の大門を観たのである、而も夫れは割合に形が完全に残つてゐた、且つ此堂は建築歴史の挿畫等で以前から大分お馴染になつてゐたから一層懐しく思つた。奥へ進んで行つたら、こゝでまた一種のドーリア式原柱に出遇つた。内部を一通り觀て外に出てアモン大堂に向ひ、遂に



Karnak の Avenue of Sphinx. 突き當りは Khons の堂

其正面スフィンクスの行列の間の、トレミー時代第一大門の前に立つた時、其意外に大きいのと、此一區劃内に中帝國以降前三世紀に至る約一千六

七百年間の歴史、そして其のうちには紅一點のHatsu——『二十壽』の字をあてておかう——女王も出て來る此大堂を、今から充分に觀覽する事が出来る幸運を感謝せずには居られなかつた、と同時に其大門が随分ひどく壞れてゐたのに少なからず驚いたのであつた、なせなら今から約百年前に出來た此大堂の正面圖に比べて其差が餘りに多かつたから。

入口の鐵柵は直に番人によつて開かれたから、直に入るとそこは第一中庭であつたが、前方をみると其昔左右に五本づゝ合計十本の柱の立つてゐたTaharkaの所謂Toskは、今たつた一本の柱が残つてゐる許

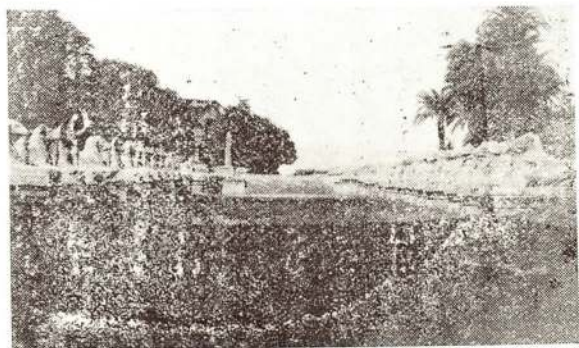
り、第二即ちラムセス一世の大門兩脇の梯形塔は殆んど全部崩潰して混亂に陥り、たゞ地上累々たる石塊が亂雜に積まれてゐて、あれが大門兩脇の塔の崩れたのだといつても、容易に首肯出来かねる位にひどくなつてゐる、そして此塔の前の前は凹いところに一面に水が溜つてゐて、而も其水たるや、大分永い間あると見え、まるで池か沼の様で到底向ふへ渡ることは出来なかつたから、斷念して遠方で且つ逆光線ではあつたが、遙に見ゆる奥の院の、コバルト色の雲の棚引ける方に向つて敬意を表し、更に第一大門の上——といつても

コンスタ堂に於けるドーリア式原柱



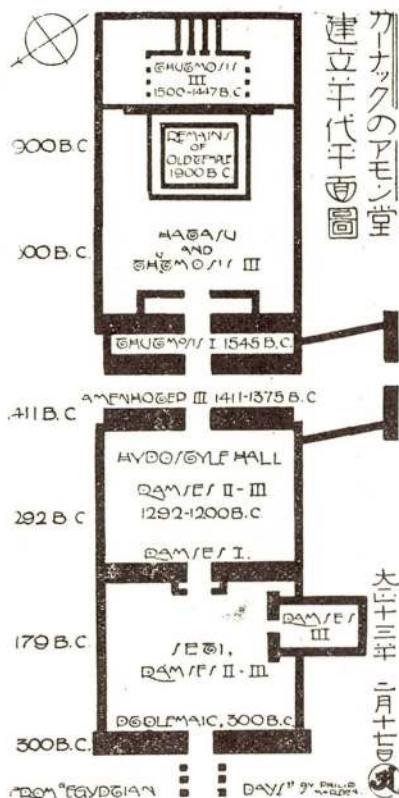
大分に崩れてゐるから、これは勿論今の頂上の意味である——へ昇つて西側をみたら、ナイル河を隔て、遙にリビアの褐色をした山岳を望み得た。丁度順光線で實に明瞭に見えたのであつたが、反對に東力を見下したら、此大堂及び其の附近を俯瞰し得たけれども、たゞ壊れかけた幾つかの大門兩脇の塔丈けが眼立つ丈けで、あとは全部ごちやごちやで、何が何だか殆んど判らなかつた。

此所を下りて大堂の北側の、發掘した土や何かで凸凹の甚しいところを歩き、プター堂をぬけて大堂の後面即ち東側へ出た、其よりつきにあるの



Karnac の Amon 大堂前 Sphinx の行列

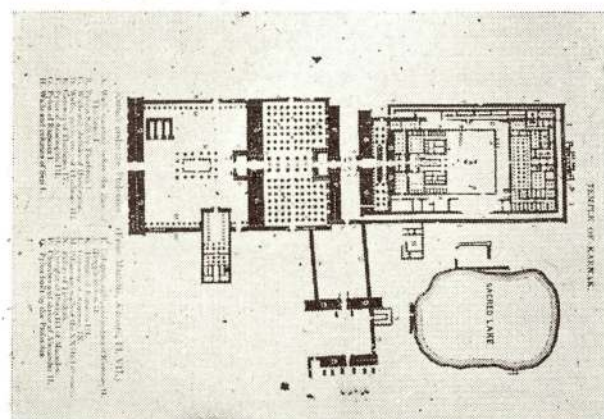
カーナクのアモン堂
建立千代千面圖



大正十三年 二月十七日

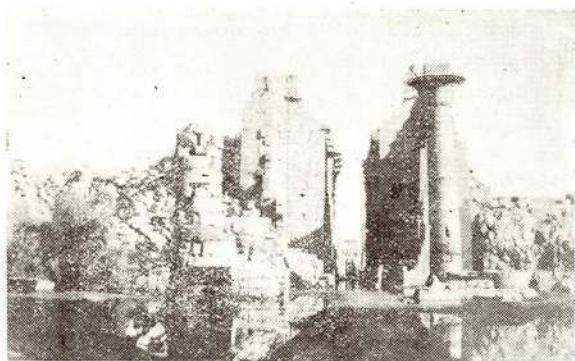
がThutmosis III.の葬禮堂であるが、殆んど全部壊れてゐて僅かに壁が少し許り残つてゐる丈けであつた。次に後方の一劃へ入つたが、こゝにも亦十六面柱もTent Pole柱形の柱もあつた、此邊を一通り済した、次は中央の一劃が目的である、こゝには二十壽女王の室もあるし、同女王及びThutmosis I.(一にThomosis I.)の方尖柱、神聖なる蓮を陽刻した力柱等いろいろある。尙こゝに一大尖柱が倒れてゐる、若し私が今ストークスへ入れ

知る由もなかつたので、全く惜しい事をして丁つた、其代りに私がつけ、案内人が反對の端を軽く敲いた音



カーナクのアモン大堂平面圖

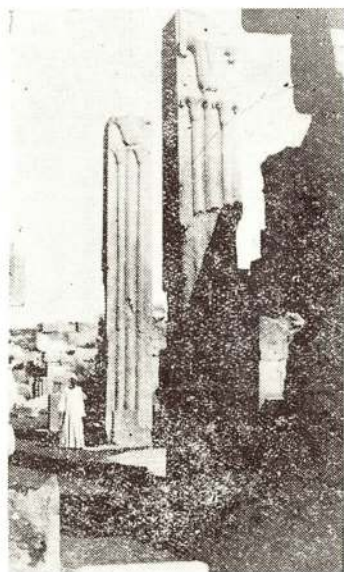
テルクソル館に置いてある鑿水引薄美濃と蠟墨さへ持つてゐたら、其面に陰刻してあつた象形文字を全部摺る事が出来たのにこんな上等な獲物があらうとは



Amon 堂の大神庭(東方を望む)

最後に第三大門(Amenophis III.)の南塔へ昇り、近く紙草葺の形をした柱頭をみたが随分大きい。人なんか到底及ばぬ、先づ其頂板迄入れると、ざつと大人の二倍はある、柱身は周圍二十七尺餘といふから直徑にすると八尺五六寸になる。若し夫れ中陣の二列十二本の大柱に至つては、其直徑約

をきかされたが、まるで金屬を敲いた時の様な高い細いよく響く音が聞こえた、丁度羅馬の S. Giovanni in Laterno 寺の洗禮堂に於て扉を開閉する時、其軸が軋んで一種の音を出すのを聞かされた様に、こゝでも少しく田舎漢扱ひにされた傾があつた



オシリスのグレン大堂に於ける蓮柱

十二尺、高約七十尺、柱頭高約十一尺といふ素晴らしい寸法のものであるから、我國に於ける世界第一の木造建築だといつて威張つてゐる東大寺大佛殿の柱なんか比較するのも馬鹿氣てゐる。が併し斯様な數字で寸法を示された丈けでは大して感ぜぬ、行つてみるに限る。直徑二間の柱といへば我國田舎間の八疊間一杵になる、柱頭の高亦約二間だから、普通の家であつたら八疊の座敷へ此開花柱頭丈けが入らぬのである、かゝる寸尺の柱合計百三十本が此列柱堂に樂に建つてゐるのであつて、試みに其大きさを調べてみると、巾内法三百

二十尺、奥行同百六十尺だがら、其面積約千四百二十二坪となる、そして此列柱堂の面積は大堂全體の約七分の一であるから、其全面積は極く内輪に積つてざつと一萬坪、境界壁内——即ちコンス堂をも取り入れたる境内——東西約四町、南北約四町七分となるのである。

今此れを我國奈良時代の大寺に比するに、當初の大佛殿は今の尺度で約一三一五坪餘(奈良尺にて桁梁間十丈七寸)だつたし、今ので約八七二坪である。木と石と材料は勿論、其他種々條件は異なるが、彼と我とは約千年の差があり、堂の面積は當初のものを以てしても僅に我は彼の約百分の十三にはか當らぬのである。次に其境内を比較してみると、約方一里を領してゐた東大寺は姑く措き、自餘の諸大寺のうち、西大寺(東西八町、南北四町、東北隅の方一町を除き、境内三十一町)及び興福寺(内郷方四町、南西北門前の四町つゝ合計十二町を合算して二十八町)元興寺(方四町に北側、四町を加へ)大安寺(東西三町南北十町)の次に位するので、藥師招提、萱原、秋篠の諸寺は何れも及ばなかつたのであつた。

此大堂が、假令當初は僅に總坪數約一千四百坪

餘の小規模のものであつたにせよ、歴代の帝王によりて多少なりとも増築せられ、遂にトレミー時代に至りかゝる程度に迄擴張せられたことは、洵に驚歎すべきであつて、此事實はまた一方に於いて、太陽の神なる Amen-ka (一は Amon-Re) 即ち

日の神アモン・ラー立像



アモン神(Amon, Ammon, Amun)が、テベスに於いて如何に崇拜され、永い年月の間信仰の對象となつてゐたかを物語るものである。

午前の仕事はこれで先づ一通り了つた、餘りあれもこれも頭の内へ詰め込んだせいか、恰も初めて正倉院を并觀して外へ出た時の様に、たゞ頭がぼんやりして萬事夢の如くであつた。そこで少しく頭を休める必要が起つたから、第七大門の北側、下度日蔭で涼しいところに腰を下ろし、眼前

に大列柱や方尖柱を眺めつゝ、ルクソル館より持參の辯當を開いた。

暫く休憩の後第八、第九、第十大門及びAnenophis II. の堂をみて南側境界壁上に昇り、アモン堂を大觀して其東南隅にある神聖地の邊に出た。

此池の西北隅に近くAnenophis III. がAtum-Khep^(蟲頭人身の太陽神)に捧げた赤花崗岩の大甲蟲がある、此

甲蟲は普通Scarabと呼ばれ、昔埃及に於いて大に尊崇されたのであつて、アモン神も時には蟲頭人身の形で出現したこともあつたのである。此蟲は其形我國のカブトムシ(Xytripes dichotomus, L.) 一名サイカチムシの雌と殆んど同じで、雌雄間に大して相違のない蟲である、何れも金龜子科(Coleoptera)に屬するものだから似てゐるのである。

此彫刻は寫生的に中々よく出来てゐて寫眞に撮り度かつたが、水があつて正面からは駄目だし、岸からでは後ろ向きの上に逆光線で丑もものにならず仕方なしに見合せた。

夫れから序だからムート堂とモント堂とへも行き度かつたが、案内人はどちらも今もう何もない

といつた、ベデカには平面圖が立派に出てゐるのだから、何かありさうに思つたのでは是非行つてみると主張したが、夫れよりもルクソル堂を觀た方がいゝだらう、實際本の挿圖と實際とは大分に異ふといつて案内人も言ひ張つた、さうなると或はさうかも知れぬといふ氣もおこり、旁々暑熱と疲労と兩方から攻められて意志頗る薄弱となり、遂にやめて了つた。

そこで一先づ外へ出て、更に一回轉して再び正面の大門を入り大中庭の具合を再び觀たが、此時丁度光線もよくなつたので、こゝから第二大門の方を觀た寫眞を撮り、愈よ思ひ切つて退却と決め大堂に永久の別れを告げ、ルクソル堂へ向つた。

ルクソル堂はナイラの沿岸に建つ、第十八王朝の天子Anenophis III. の創始するところである、正面の大門からは入れぬから、西北側の中程へ廻らなければならぬ、この側は即ち河岸で、午后行くに全體に西日を受けて、割合によく残つてゐる紙草の集合叢柱及び開化柱が、まことに氣持よく見える、實際、これ程集つて建つてゐるところは

他にはあるまい。

前記川岸の入口を入るご、アメ・フキス三世の中庭に出る、こゝからラムセス二世の中庭へ行く

が、如何にも整然として其輪廊も頗る明瞭に見える。こゝから逆に戻つて堂の西南部には尙種々見るべきものがある。



人身にて出現せるアメン・ラーミ
女神アイシス (エヴェリン・ポール筆)

西二列に建てる十四本の紙草の開花柱は、其大さに於いては勿論、モン堂の夫れに比すべくもない

中へ入るのであらう、だから悪くさるご、態々水を溜めたさと思へる、即ち雨が溜つたのを大事に

ラムセス二世の大中庭の一部柱の間に、此の天子の立象がある。こゝは私の行つた時には、二尺以上の深さに水が溜つてゐて到底歩いては行けなかつた、併し番人は玩具の様な小さい木船を浮べておき、希望者をのせて自分は水の中を押して行つて見せるので、私もこの方法で一通り試みた。元より船へ乗てからには別に所謂お心持も出すので、これけ當然番人の懷

とつておいて夫れによつて番人が餘分の收入を得るのかも知れぬ。

この小舟で見物してゐるうちに、西南隅に近き

壁面に於いて、殿堂の正面即ち大門の圖

が陰刻してあるのをみた。元來大門兩脇

の梯形塔の正面にある間所、——例へば

カーナツクのコンス堂の夫れに於いてみ

るが如き——は、旗竿を樹つるに便なる

様に造つたものだを承知してゐたが、こ

ゝに初めて繪にある通り旗竿を此間所に

沿ひて樹てゝあのであつた。拓本だつて

樂にされるどころだつたが、前記の理由

により割愛しなければならなかつた。

此中庭の先きが大門であるが、其大門

を表から一寸入つたところ、即ち此中庭

の東の隅の一部分は、新しい回教の *Abd el-Haggar* 寺が喰ひ込んでゐる。此の

現象も亦各國共通だから敢て珍らしくもないが、

我國の寺と異なり何れも石造だから、互に喰ひ合

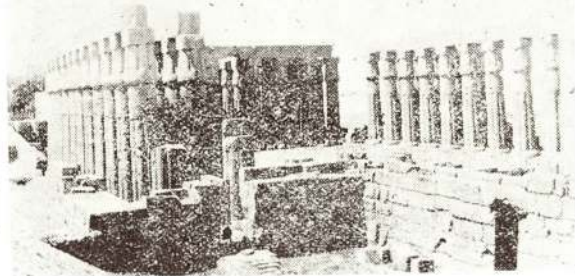
つてゐるところ新舊相並んで甚だ奇觀である。

大門の前には、此中庭と同じくラムセス二世の像があり、尙方尖柱もある。此等を觀やうと思つたら、どうしても外から廻らねばならぬ、寫眞を

撮らうと思つたら朝早く行かぬといけない、さなくば日没位の時でないで、間はいつも光線の工合が悪い。

× × ×

ルグソル堂の列柱



アモン堂からルグソル町迄は、今朝雇ひ入れた馬車で歸つて來たが、町のある骨董屋の前で馬車が停つた、これはムスタファが停めたので、彼は私に此家は自分の伯父の家で、極く正直者で決して模造品は賣らぬ、何れも正しいものばかりだから、兎も角も一通りみてくれといつた。見たつてどうせ買はぬのだからと思つて、店領を一巡してさつさと出て了つた。出るさ直に確

子玉か何かの首飾りを賣りつけやうとする、うるさく付き纏ふので知らん顔をしてゐると惡口雜言をする。最も奇抜だったのは蠍と毒蛇を嚙いてみつけて捕へてみせるといふ男であつた。折角だが兩方共よく知つてゐるから捕へてくれないでもいい、そんな物は大嫌だといつたら膨れ面をして行つて了つた。

寫眞屋へ『フィルム』を買ひに入つたら、是非現像をさせて呉といふ。切り抜けて今度は繪葉書屋へ行つたら、そこが寫眞屋兼業であつて、混血の番頭か何か『あなたは十一の二十五で寫しましたか夫れども十一の五十ですか』ときくから、返事をせずに繪葉書を書つてゐると、傍へ來てうるさくきく、癢に觸つたから語氣荒く『おれの思ふ通りに寫したんだ、寫つてゐやうとゐまいとおれの勝手だ』といつてやつた、そしたら彼は『話したつて別に差支はあるまい、露出時間と絞りの關係は中々難かしいから、忠告をして上げやうと思つてきたのだ』といった。『親切にありがたいが、多年の経験でやつてゐる、まだ埃及では一度

も失敗したことがないんだ』と言つてやつたら、あきれたと見えて遂に沈黙して了つたが、私がこの店を出て堂の正面の方へ行つたら、番頭があとからついて來て、兎も角もためしに一本丈け現像させてくれといつていつ迄もついて來た、併し此男も私一流の秘法で撃退したが、一つでも仕事をさらうといふので其しつこいことは、到底一度出合つたものでなくては判らぬ、丁度倫敦の濃霧がいくら話をしても話丈けでは判らぬと同じ様に。今日突然右眼周邊角膜潰瘍にかゝつた、昨午出がけに病つた丈けで幸に今日迄無事であつたが、悪い時になつたものだ、旅中で湯が不自由だから仕方なしに硼酸水を作り冷罨法を初めた、生兵法大疵の基位のことでは心得てはゐるが、兎に角硼酸だから大した事はあるまい、やらぬよりいいだらうと思つて始めたのである。

斯如にしてルクソルの第一日は過ぎて了つた、餘すところ二日ほかない。この二日でも左岸を一巡せねばならぬのである。(大正十三年四月十四日稿了)

畫界に於ける新傾向 (下)

春陽會審査員 齋 藤 與 里

けれどもそれは最初のことであつて、段々内容

も異ひ形式も異つて來て、さう云ふ宣言の下に生れた未來派と云ふものが、何と云つて可いか、主智派とでも云ふか、彼の佛蘭西の「ピカソ」あたりになつて、自分の知識を主にした所の一種の繪畫が生れて來た。併しそれも「ピカソ」の如き非常に聰明な、非常に鋭い頭が或程度までさう云ふものを形つくつたに過ぎない。もう筆や繪具を用ひないで、直接に「カンバス」に向つて針金を引張つたり、古い新聞紙を貼つたり、色々の材料を縛り付けたりして、色々な形をしたものを表現したのである。我々が見ても、逆も他人の追従出來ない所の色々の新發見をして居るけれども、最近に至つては全く開う云ふものを棄てて、又極端に「クラシク」な藝術に還つたと云ふやうな狀態を見て、未來派と云ふものは、ホンの一時の流行で繪畫

の本統からは外れて居つたやうに觀察する。

其の未來派も三角の「キュービズム」とか色々に分れて居るのであるが、其の後獨逸に表現派と云ふものが起つて、活動寫真とか色々の方に其の運動が行はれて居る。是は又「ヒューテュリズム」とは多少異ふけれども、是が果して何處まで進むか、其の實現されたものが一つの意義を造るか、又其の主義主張としては非常に面白いものであるが、矢張り繪畫の形式から定められた繪畫の有つ使命に怎の程度まで一致して行くかと云ふ事は尙ほ疑問にされて居る。此表現派は全く對象物を要しない。未來派の繪畫は如何に新しい考を有ち、如何に深遠な思想を有つて居つても、まだ對象物と離れることはしなかつた。飛んで居る鳥を描くにしても、飛行機を描くにしても、何を描くにしても皆それ／＼對象物はあつた。けれども表現派

に至ては全く對象物は要らない。色にも形にも定められた對象と云ふものはない。自分の思つたもの、感じたもの、夫が何であらうと構はない。自分の感情、自分の心に浮んだ其の時の氣持を形の上に現すと云ふのが、表現派本來の使命とする所である。是も考へれば、我々が生きて行く上には色々な感情に促はれる、何んだか分らないが、非常に氣持が悪いとか、何だか知らないが、非常に愉快だとか、譯の分らない感情に支配されることゝが度々ある。其の時は少くとも其の人の生命生活は其の感情に支配されて居る、それが本當の自分である。其の偶々突發したる所の感情、氣持と云ふものをそこに表現すれば、自分と云ふものが其處に現はれる。さう云ふ所から何でも可い、自分の心に浮んだもの、其の感情を表現しやうと云ふのであつた。未來派の繪畫には、まだ何處かに據る所があるけれども、表現派の繪畫になると、全く據り所が無い。故に表現派の繪を見て、何が此の中に畫かれてあるか、何處に顔があり、何れが手であり、足であるかと云ふやうな風に詮索する

と、其の繪は益々解らなくなる。三角流の「キユービズム」から脱化した、と云ふことはまちがひないのであるが、さう云ふ目的の爲に書かれて居る繪であるから、何か其の中に自分の曾て見たこと、感じたことのある既成物件があるのではないかと云ふやうな解釋から、あゝ云ふ特殊の繪を見ると、迎も解るものではない。唯其の繪が非常に紅い、何だか知らないが、火事を見るのと、同じやうな氣持がする繪であるとか、又其の繪を見て居ると、海の底でも歩いて居るやうな心持になるとか、或は非常に陰鬱な觀念に襲はれる繪であるとか云ふ風に、其の畫面全體から、其の繪の有つ綜合感にぶつ突つて、何等かの「ショック」を受けると云ふことが其の繪を理解したことになると思ふ。

私は表現派の音樂を見たことがある。音樂を見ると云ふのは可怪しいやうであるが、活動寫真だか幻燈だか知らないけれども、兎に角表現派の音樂と云ふものを見ると、暗くした所で種々様々の色の運動を映す。それで音樂は音である。何か音

が響いて來なければ音樂でない云ふやうな既成觀念に支配されて、それを見ると、何も得る所は無いかも知れないが、全く虚心平氣に其の色彩の運動を見て居ると、恰度耳で音樂を聴くと同じやうな心持を味ふことが出来る。例へば細い雨のやうな線がサツと下りて來ると、又太い青線が右の

方から來て、一つ捲いて左の方に逃げる、或は畫面全體がバツと明るくなるかと思つて、又青くなると云ふやうな風に色々な旋律を書き現して、其處に一種、音樂を聴くと同じ氣持に於て、それを味ふことが出来る。(畢)

け　ふ　も　ま　た　誰　も　來　ざ　り　き

お　も　ひ　こ　こ　ろ

安　ら　か　に　戸　は　閉　す　な　り

漫 録

建築家と活動寫眞館

池田 谷 久 吉



近時キネマ界の素晴らしき發展によつて活動寫眞館の建築の方面から論議、研究され最早や建築に於ける一大専門部門的地位を得るに至つた。併し活動寫眞を愉快に觀客に見せるために繊細な注意と熟練と先見とを有つてゐるものは極めて稀であると思ふ。過去に於て都會の場末の寫眞館を初め其の他田舎に出來る比較的小さい新設の活動寫眞館は、現今でも非常に古い形式であり又悪い劇場の習慣であつたあのピカ／＼光つた純白の

漆喰壁が用ひられてゐるが、最近建築されるものゝ多くは其の目的に對して一般が期待されてゐる室の配置、裝飾、通風、採光其の他の設備が漸く完きものに近づいて來た事は識者の認容するところにして歡迎すべき現象である。

先づ活動寫眞館の第一要件として考へなければならぬ事は、觀客をして始終自由な境地にあらしめて映畫を觀賞し享樂させる事にある。此爲には觀客が何の席からでも自由に映畫を觀賞する事の

出来る様に心掛ねばならぬ。尤も座席の等級の高低に拘はらずこの事は必要な條件である。

若しも場内客席の観客が極僅少な人でも映畫を完全に見る事が出来なければ此の活動寫眞館は失敗のものであり、假令興行主が優良のフィルムを採用してもそれは無益な事であると思ふ。何故なれば活動寫眞事業の中心は所謂民衆娛樂であり普通席観客が最も重要顧客であるからである。建築家は先づ斯の事を忘却してはならない。

次に重要な設備は通風裝置である。近時、從來の自然通風から機械的通風へと進んではゐるがそれも名のみにて實際の擧つてゐるものは極めて稀れて有名無實とは心細い次第である。

甚しきものは極端に蒸暑く、風通しの悪い爲めに短時間にして身體の疲勞を覚え、頭痛、眩暈さへ起る事が多い、此の責任者は誰だらう？。

無論、之は建築家の過失に起因するは自明の理ではあるが、結局は興行者の責任でありその經營を非難される事になる。

恐らく、人間は夏に涼を冬に暖を欲する。斯の

意味に於て活動寫眞館に就いても四季を通じて人間生活に適應した寒暑を調節する方法に對しては最も細心な注意を拂はなくてはならない。勿論斯の問題も通風裝置を離れては解決されないものである。

管絃樂のボックスの位置、——活動寫眞館に入つて先づ目につく一つはこのボックスである、が餘り好感を與へるのは殆んど無い、多くは在るよりも無い方がましだと思はせるもののみである。普通一般では觀客席と舞臺との間に種々な形狀に造つて配置されてゐるが、これは現今この管絃樂が活動寫眞の前奏、間奏、又は伴奏に用ひられ映畫と密接な關係を保つてゐる爲に先づ位置として決定は出来ない。

然も特種な活動寫眞館以外のものに於ては音樂は只映畫に從屬した第二次的のもので、指揮者及音樂士の動作が映畫の効果を損傷しない様にしなければならぬ。

また音樂士控室とボックスとの出入口は餘り觀客の目にとまらぬ。而も便利なところに設ける必

要がある。多くの劇場や活動寫眞館では平場觀客席に着席すると、管絃團員が終始出入する騒々しさに或る夢魔にさへ襲はれる事がある。

次に光線の問題であるが、映畫に對する光線の設備は勿論建築家には別な問題であつて、投光器の設備が完全であり、夫が防火的であり、又正確であれば、それ以上は無關係といつても差支かへない、併しながら、建築家が賢明な人であり、自己の設計に對して忠實な人なれば、勿論外部内部の光線に就て或る程度まで干渉し、忠告し、監督する事は當然爲すべき役目ではなからうか。

何故なれば、如何なる壯麗雄大な建築物に施された美しい偕調の色彩も光線の悪い爲に全然葬り去られる事が常に我々の經驗するところに徴しても明である。殊に我國に於ては元來建築物に使用する材料の關係上、色彩に對する觀念の幼稚な爲に餘程の周到な建築家でなければ色彩に留意されない。

昔時は劇場の光線としては人爲的な光線を用ひなかつた關係上非常に明るすぎる位であつたが、

其後瓦斯電灯等を用ひて以來反動的に薄暗い、ジメジメしたものになつて來た。従つて活動寫眞館に於ても恰度寺院の内部にでも入つた様な感のする傾向を帶びて來た。是れは悪い傾向で排斥すべきである云ひたい。

凡ての光線は軟柔にして沈靜、而して更に愉快なものを理想として慾求する。また何處の活動寫眞館でも劇場に比しては頗る靜肅なものであつて觀客席に於ては觀客が更に私語さへもしない程靜寂を保つてゐる。況して薄暗い宗教的な光線や一般に不必要な不似合な大きな音樂はよく活動寫眞の總てを氣の重苦しいものにして終る事がある。

是等の事は活動寫眞館主や設計者や建築監督者に於て如何なる影響を觀客に及ぼすかを自覺しなければならぬ。拙劣な設計、不調和な建築は決してその經營の上に於ても成功すべきではない。併し目睫の利益の打算にのみ汲々としてゐる現今の興行主は、觀客の不満足は只漠然として意識するが、其の爲に觀客の足が遠くなり此の無言の競争を自覺するものは殆んど渺い。

現今各地方廳では保安警察上の立場から種々の取締規則によつて注意、監督はしてゐるが是等は只皮相な一面のみであつて決して活動寫眞館の内面的生命の問題には縁の遠いものである。官廳には官廳としての立場があり、經營者には經營上又は管理上の立場がある。而して建築家には建築上の立場がなければならぬ。過去の建築家は餘りに自己の職責に不眞面であつた、怠惰に過ぎた。

建築家は此際映畫界に於て運命を開拓すべき使命を帯びてゐる。是は鋭敏な感覺と聰明にして注意深い思考にあり、又彼の職務が新時代に適合した而も中心を外れない新機軸に對して固有の問題に對する眞面目な鮮かなる態度を保持する事が肝要であると思ふ。

以上は極めて不秩序ながら私の偶感を吐露したまでである、此事に關しては論すべく叙すべき事は却々に多いが、それは何れ後日稿を更めて所懐の愚見を發表するを期して擱筆する。

——一九二五、五、二〇——

梅

雨

(一)

花	々	梅
松	の	雨
に	嵐	に
日	や	入
		る

ペンの影を追ひて

水島 與志雄

地に立ちたる建築

流動は生活の相である。固停は死滅と同意義を有つ。近代思想の亂れた激しい流れを所謂澎湃たる大海の終りに形容するのはすでに古い。流れは恣に四周に揺れつゝある。全らゆるものは國境を越え種族を貫いて全地に溢れ廣まり初めた。インタナショナルとは近代の全らゆる社會での極くありふれた合言葉なのである。近代の全らゆる生活の相の評価は唯一途にインタナショナルを規準とする。一切の共通目標は、一語で言へば、普遍である。一切は平面に低く廣まらうとし初めたのである。この意味で言つて、近代生活とはインタナショナルな生活の謂であり、所謂近代人とは世界人の謂である。が、私が今こゝで言はうとするのは、藝術が如何に普遍性を有たないかとの問題に

就いてである。

言ふまでもなく、藝術の正しき創造的衝動の満足はその藝術家の内生活の純粹表現の中にある。藝術家の生活は廣義に言つて一個の藝術活動であり、藝術活動はその儘すぐ藝術表現であり得る。或は藝術表現は生活の相の反影である。表現は故に、個性である。藝術は正しく素直に理解され評價されなければならぬ。藝術の有つ必然性は、一言でいつて、個の個としての確固な主張のうえにのみある。藝術の重さ是如何に普遍的であるかよりも、先づ如何に個性的であるかにかゝらなければならぬ。藝術の價値は先づインタナショナルであるか否かに依つて評價されるのは正しく妥當ではないであらう。インタナショナルとは均一の謂であつてはならぬ。藝術とは廣く安價に用ゐられやうが、爲にされたる日用品や貿易品等の如きも

のではない。普遍が沒個性を意味する時、普遍は藝術の邪道でしかあらぬ。藝術は普遍に媚びる以前に自らの個性に深く沈潜しなければならぬ。藝術の高さは個性の深さである。表現の鋭さは個性の深さである。藝術運動とは個性の表現運動である。ミケランジェロの藝術はミケランジェロの個性である。ロダンの藝術はロダンの個性である。藝術の輝きは個性の輝きである。藝術は個性である。エスペラントは藝術の世界には異端である。

従つて、或る國土にはその國土の確固たる國土藝術が培拓さるべきである。或る國民性はその國土から遠く外れて恣に生長することは能きぬ。國土はその國民性を育てると同じやうに、必ず、その國土の藝術を哺む。安易に言へば、國民性の表現はその國土の奪ひ得ぬ藝術様式である。アメリカの藝術様式を日本の國土が生むことは能きぬ。藝術は藝術家の全個性の表現であり、全國土の象徴である。藝術を價值づけるのはインタナショナルではない。國土の藝術はその國土としての全自我の肯定、其國土としての全個性の伸長の上に建

つ。創見を自由の國土に解放しなければならぬ。國土は誤解され得るやうに醜く狹隘を強むはしない。新しい藝術價値の創造は國民性の自由なる生長のうえにある。藝術の基音は國土である。藝術の旋律は國土の和聲である。日本の過去の藝術を輕視することに慣れて、日本の蒼空と大地とを、日本の光と海とを、愚かしくも忘れ去つてはならぬ。日本の太陽は日本の國土を培うた。日本の水は日本の文化を育てた。日本の風は日本の藝術を哺んだ。和解的に言つて、太陽は世界の果てまで一つである。思维的に言へば、日本の太陽は決してアメリカの太陽と同一ではあらぬ。如何なる藝術家も北歐の沈鬱を南歐の快活に變へ得ない如うに、日本の明揚をアメリカの輕淺に置き變へることは能きないであらう。アメリカが藝術を日本の藝術とすることは日本の國土の冷死である。日本には日本を求めよ。日本の國土が日本の藝術を育てないで、誰が育てやうと言ふのか。接木の能きないものを強めて接木しないでをくがい。移植してはならないものをもの珍らかに移植するのは

待つがいゝ。國土にはその國土の避け得ざる容貌がある筈である。奪ひ得ざる内性がある筈だ。國土に深く沈潜し、先づ國土に深く根を張れよ。

全らゆる藝術の創案企圖は、從つて、その特異なる個性のうえにのみ建てらるべきである。殊に建築はその藝術表現の様式上、その國土の風水、環境に從つて、最も深重なる考慮の後に計畫さるべきであらう。建築は彷徨する藝術ではない。建築は先づ國土に深く根を擴げ、國土に抱かれて生長しなければならぬ。建築は四周に離れて存生することは能きぬ。國土は異端者を健やかに育てない。日本には日本の國土に愛撫され得る建築が要望されなければならぬ。インカ帝國にはインカ帝國の建築があつたのである。エジプト王國にのみエジプト王國の建築が生長したのである。日本の建築様式は、決して求めて他の建築様式に抱合される要はあらぬ。藝術の所謂主義主張運動等が、決して、平たく統一される要がない限りは、建築の様式が他の様式と混錯し妥協し合ふ要はないであらう。ゴシックはゴシックとして自由に伸

長して不可ではなく、セセツションはセセツションとして恣に自らの個性に生きて些僅も誤謬ではないであらう。様式を有たないことはむしろ自由なる藝術の矜持である。極言すれば、一個性はそのまゝ一様式である。一個の藝術作品は直ぐ一個の藝術様式の代表である。日本は日本の國土に芽生え生長した藝術を有たなければならぬ。日本の都市は日本の建築で掩はれなければならぬ。國土はその國土の都市を有たなければならぬ。日本の都市が、速かにアメリカの都市の如くに装はれないことに依つて、性急に日本の都市計畫者を嗤ふことは能きないであらう。ニウヨオクには、ニウヨオクの近代の美があるかも知れないが、奈良には奈良の古典の美があつていゝのである。藝術の本質的價值は、決して量と嵩とその粉飾とに依つて決定され得るものではあらぬ。美を正しく理解し得ないで、藝術から美を追ふ程愚であつてはならぬ。先づ、國土を愛撫し、理解するがいゝ日本の建築は日本の國土から生れるであらう。近代の日本の都市に於いて先づ要望さるべきは、

眞に近代的に洗練されたる國土の情趣である。

過去五十年間に跨がる日本の近代建築史は、言ふまでもなく、所謂西歐の洋風建築の模倣に終始した建築の屈辱史にしかすぎぬ。雜多な建築様式は極度に亂れて恣に日本の全表を掩うた。藝術の奇怪なる移植、沒國民性への他文化の接木、藝術の非藝術への安易な翻譯等、極言すれば一切の似而非文化の白晝の混錯たる横行である。偶々創見らしく装はれたるものも、殆んど強ゐられたる哀しき模倣にしかすぎない。好意的に解するも、過去五十年間は唯單なる建築史上に於ける過渡期にしかすぎはしなかつたのである。過渡期にも勿論過渡期としての面白さも豫測され得るのではあるが、昨日の面白さに酔うて、今日も過渡期のその傍景的な効用に空しく低徊し果てゝはならぬ。過渡期とは畢竟搖籃期の謂である。過渡期は終るべき時期に終了さるべきであらう。五十年の過渡期は日本にとつて餘りにも長すぎた。日本の建築様式が所謂洋風建築の模倣時代から脱出すべき時は明日ではなく、今日である。第一期模倣時代に

何時までも第二期第三期の模倣時代を重ねてはならぬ。模倣の屈辱から創見への自由へ躊躇なく今躍進すべきであらう。藝術から藝術の意を奪つてはならぬ。日本の近代の建築としての侮りを受け易き所以は、建築の藝術としての眞義に徹せず、模倣の世界にこそすれば安住し固停し果てやうとするところにある。模倣は生長へは些僅も奇與しない。模倣は虚偽に近く、姑息とは隣り合はせである。日本の各地の都市がニユウヨクの如く徒らなスカイスクレイバのみの整調なき不快な都市となることは、疑ふまでもなく、建築界と都市との墮落である。時代の感覺を有たないで時代生活に正しく生きる事は能きぬ。現代の日本の生活には現代の日本の表現が求められなければならない。今日の意匠は今日の情意のうえに考案されなければならない。今日の藝術は昨日の藝術の終つたところからその出發を初めるであらう。

國土建築の創生は、即ち、先づ過去の模倣建築の雜多な様式を破却して、新しき建築の自由なる世界へ出發するところから始まる。曾ての關東の

大地震は世界史上未曾有と稱へられた。彼の大地震こそは確に日本の建築界に新紀元を劃した。過去の過渡期はかの大地震で終了するが、いゝ。かの日こそ日本建築界の地底よりの甦生の日である。破棄と建設の日である。誕生の日である。一切は大揺れに揺れて、白晝、世界の目前へ投げ出された、崩れ去るものを崩れ去らしめよ。破滅し果てるものを破滅し果てるに委ねよ。舊愆を拾袖するに急いではならぬ。固陋を棄てよ。因習を去れよ。舊套を脱げよ。一切の破綻は一切の甦生である。一切は地震前派である。歴史は更新されたのである。屈辱の模倣時代は終つたのである。新しい國土建築の世紀は始まつたのである。日本の近來建築の眞に光榮ある歴史は、實に、千九百二十三年九月一日からこそ初められなければならぬ。過去の醜き廢墟のうえにこそ、自信づよく、日本の國土建築は立ちあがらなければならぬ。與へられたる新しい創見への道を躊躇つてはならぬ。一步の躍進は央ばの成就である。藝術は踏襲ではなく、開拓である。頽廢ではなく、生長である。今こそ

國民性の線強き表現が要望されなければならぬ。今こそ、全らゆる自由なる國土の表現様式が要望されなければならぬ。主張は正しく主張されなければならぬ。生命は生命として端的に表現されなければならぬ。建築は建築として正しく評價されなければならぬ。かくて、優れて新しき國土の建築は、必ず、世界に特異なる優れて新しき國土の都市を建てるであらう。新しい藝術世紀の目標は國土である。國土藝術の情意は模倣ではなく、創見である。躊躇ではなく、躍進である。藝術の積極道である。かくて、新しい都市文化の象徴は新しい國土建築の優れたる藝術表現のうえにのみ建てられるであらう。

従つて、地に立ちたる建築とは、こゝに言ふ國土に深く動かざる根底を有つて、自らの國土の全自我表現のために、自個の十全の世界に正しく生きる建築との謂である。所謂インタナショナルの流れの中に確立して、その沒藝術の輕淺なる思惟に媚淫せられず、遙かにインタナショナルを越えて、不滅の世界に藝術の燈明をかゝげる藝術との

謂である。ミケランジェロの藝術は最後までミケランジェロの藝術であつて、而も、他の群小作家の藝術よりは遙かに深く廣くインタナショナルである。ギリシアの藝術は限りもなくギリシアの藝術であつて、而も、千古に輝やかしくインタナショナルである。日本の藝術は厭くまで日本の藝術をして深く高く生長して、則ち、インタナショナルである。藝術は混血兒の如きものではあらぬ。繰り返へして言ふ如うに、藝術は折衷では、決してない。普遍が沒個性を意味するなら、かゝる意味の普遍は、藝術の疑ふべからざる邪道である。日本はすでに日本の新しい建築様式を生んでいゝ日に遭遇し直面した。アメリカの建築表現の様式のこれ以上の模倣は日本の建築のも早や堪え得ざる屈辱にすぎはしない。アメリカの藝術表現がそのまゝ安易に日本の藝術表現に置き變へ得るとは奇怪である。アメリカの藝術表現はアメリカの國民性の何等かの意味での反影である筈である。日本には日本の國土の個性がある筈である。日本の藝術表現は日本の國民性の自我からのみ出發しな

ければならない筈である。自我の主張は狹隘を強ゐた誤れる企劃ではない。國土藝術の主張は、決して、所謂安易なる國粹論者の固陋なる主張の如きものではない。地に立ちたる建築とは、安易に言へば、新しい日本の國土の自我を肯定して、新しい國民性の表現に出發し、最後までこの美しき國土に深く確く立つて、千古に日本の藝術の價値を確立すべき建築の謂である。日本には日本を求めよ日本の新しき建築は日本の新しき國土から生れなければならない。

浮き魚の

背筋見せけり

杜

若

田園住宅の勝利

緑はなごやかに私達を慰撫します。緑は田園のいつはらざる肌色であります。土は私達をすくやかに生長させます。土は田園のつゞましき情意であります。私の今こゝに言はうとするのは、裸體にされて緑の土の上に何氣なく素直に置かれたる住宅との意味なのであります。

言ふまでもなく、近代科學と産業との夜に日を繼いでの發伸隆盛は、近代都市文化の暴力的な騷がしい生長を促進させました。都市の長く恣なる獨手は厭くことなき媚惑を以て全らゆるものを些の躊躇もなく奪掠し、自らに空しく隷屬させました。世紀は近代都市文化の勝利を聲高く詩うたのであります。而も近代都市文化の唯一の最大なる價值的誤謬は、一言で言へば、緑の土を忘れたことであります。言ふまでもなく、選ばれたる文化の歸趨が私達の人間性の生長に些の交抄をも有たないことは宥され難い文化自らへの冒瀆ではありませんが、單に繁褥なる装ひが文化の相である間は

その文化は人間に直即したる眞の文化としての價値を獲守することができないであります。文化は單に唆感的なる線と色彩とに依つて粉飾された形骸でのみある筈はありません。表皮に纏着した所謂近代的なる情意がそのまゝ文化ではあり得ませぬ。都市が灰色に湖塗され終ることがその都市の文化への誤りなき進展ではありませぬ。都市が線を失ひ去ることは都市の正しく惠まれた文化ではないであります。文化とは正しく言つて、人格的愛の新しき創建であり、人間的價値の新しき肯定の謂であります。人間性の正しき確立こそが求めらるべき私達の文化であります。而も、正しき人間性の發見は、都市に於いては決してなく、田園に於いてのみ充分成功されるであります。疑ふまでもなく、過去文化の激しき掘移は曾ては田園を人間から無下に切り離したのであります。田園の侵掠はかへつて人間性の侵掠を意味する結果になるであります。文化の眞の命調は土であります。都市よりも、田園であります。

従つて、私達が求めて田園にその住宅を置かう

とすることは、決して、眞の正しき意味での文化との偏狭な絶縁でもなく、文化への頑陋な拒否でもなく、人間性の力強い肯定を意味するのです。田園の飾りなき大氣の新純さと青澄さがこそ、私達をすがすがしくなごやかに哺んでくれます。醇美はそこにのみ發見され得ます。暖かさは土の中に潜んでをります。純眞は土から生長します。愛は土の姉妹であります。快活は土の天性であります。鈍重は土の特質であります。ホイットマンが彼の詩集に『草の葉』と誇りやかに名付けたのは當然でありませう。そこには誰にも踏み殺され得ない青草が葉が生々しく揺れてゐるのです。ここでは土の上を走り土の下を潜つて來た生々しい水を思ひのまゝに飲むことが自由なのです。そこでは私達は草の葉や小鳥や虫と俱に生々しい呼吸を一つにする愉快を有つことが能きなのです。眞の意味での正しき文化の人間性への刺戟は、決して單に都市のみの恣なる占有的な特權であつていゝ筈ではないのですか、錯覺的に強激な色彩と胸を強迫するやうな激越な音響との厭うなき亂踊は、

全ての刺戟を掩ひつくして、確に都市を人間濫弊の地獄都市と變へ去りつゝあります。愛は都市に於いては翫ばれたる空論の一つにしかすぎなくされてゐます。談笑の快活さは今や都市から逃れ、靜かなる慰撫と深き冥想との世界は都市から哀しく消え去りつゝあります。都市は今や眞に地獄よりも地獄的であります。時代の一切の濁りと汚れとは撃つて近代都市文化の汚垢なのであります。救ひは、當然、土からのみ來なければなりません。人間の世界を偏狭なる都市のみに限ることは、少くとも、人間本具のくくなければならぬ生活への冒瀆であります。人生の正しき眞義は一切を一度びは土に投げ出し、自ら親しく田園に下り立つところから初められます。土との親しき交友を輕視してはなりません。土の生活には他者との隔意ある境界はあつて無駄であります。土への遮斷は自らを土から抜き棄てることであります。私達の眞の人間性のための文化は土から離れては萎へます。土への異端は、すぐ、死への媚諂であります。

故に、こゝにする田園住宅の唱名は、決して所

謂農業偏重工業輕視の如き夢中の盲論ではありませぬ。私は田園が都市よりも景勝だといふ理由に依つて田園住宅を主張しやうとするものではないませぬ。土への讃仰は人間の飾られざる本眞性への讃仰であります。そこには、勿論、緑の廣度と濁らぬ大氣、なごやかな曲線と澄める流水とがあります、正しきに置きかへられたる文化がかうした田園と没交渉だと言ふのはありませぬ。

近代の經濟も今一度びは都市經濟の居座から土の經濟へまで下りるべきでありませう。土の經濟は人間のみの經濟ではありませぬ。近代の科學も醜く破産しないうちに一度びは今土の科學へまで解體さるべきが至當でありませう。假面は剥がれなければなりません。而して非は抛たれなければなりません。都市が何時までも曲める文化の傀儡であることは私達の矜持ではない筈です。表面の愉樂と安逸とが人間を本然の姿のまゝ素直に生長させる筈はありません。論の要點は曲める近代都市に於ける生活の一切の種々相を、とゞ角も、一度び裸體の田園に解放し、一切の文化價值を

甦新させやうといふところにあるのです。従つて會ての都市住宅の一切の様式をそのまゝ今直ぐ田園に轉じ建てやうとの謂ではありませぬ。四周を變へやうとの希ひではなく、生活の内性を新らためやうとの希ひなのです。従つて、そこには新しい様式が個々に求められなければならないわけです。安易に考查され得るやうに、田園住宅は都市住宅の全でよりはその個としての主張を明らかに強くし得る便宜はあるやうです。都市に於ける住宅は一面は個人の住宅でありますが、他面は都市の共同建築であり、衛頭の共同建築であるため、外部へのその個性の表現主張を恣に伸ばし廣げ得ない不自由さがあります。都市建築物法其他の制限と規約とは、都市住宅に幾分の規制を強めます。田園住宅はかうした規約や制限からは自由になります。即ち、都市に於いてよりも、田園に於いての方が人間性の自由なる飛躍と伸長とが望み得られるわけです。

従つて、新しい田園住宅の選ばれたる容貌は、決して、都市に建てられたる外への誇示のために

のみされたやうな作宅と等しい容貌ではありませぬ。都市住宅への絆は私達の想像以上に強さうではありますが、都市住宅をそのまゝ田園へ建て並べたものを、私達は田園住宅とは呼び得ませぬ。所謂近代の都市文化は田園に要はありませぬ。土は強ゐられた派手な表現を知りませぬ。田園は何等の今更らしい誘示をも求めませぬ。風は風の欲するまゝに自由に吹き通り、水は水の希ふまゝに恣に流れ去つて後を濁しませぬ。田園住宅とは、陽に輝やき土に巻かれたる、最も安易なる自由住宅の謂であります。自由住宅は所謂文化に依つて新しく装はず、太陽と土とに依つて慎ましく装はれません。窓は風へ向つて他意なき挨拶の言葉を述べ庭はのびやかに大地に横はります。なごやかな寛ぎは周囲をやはらかく抱だきます。そこには醜惡なる看板もなく、鋭狭なるプロパガンダもなく、區劃の整理を強ゐられる要もなく、所謂文化的施設を急ぐ要も認められませぬ。伸び得るまゝに素直に周章せず伸びやうと言ふのです。一切は熱意ある静けさに生きます。そこには豊麗なる情意

と醇澤なる野趣とが溢れてをります。全ては寛濶の一語に形容されるでありませう。住宅の美観はその住宅が位置されなければならないところに、伸びやかに、自らの内性のまゝに自由に位置されるところにのみあります。清潔は誤解されてゐるよりも未だ田園を去つてはをりませぬ。土は都市よりは極めて清純であります。水は文字通りに土から湧き出づる清冽なる泉であります。大空は澄んでをります。正しき生命の文化はこゝに健やかに芽生えないでをく筈はありませぬ。こゝにはも早やその住宅の建築様式は重大的なる意義を有つ要を失ひ初めます。都市に於いては窓が三個に限られたる住宅も、田園に於いては七個の窓をも求めることが能きませう。都市に於いての石の牆壁は田園住宅に於いては必ず影を消し去りませう。何氣ない木立と野の草とは田園住宅の選ばれたる完全なる牆壁です。五十階のスカイスクレイパーは田園の何處にも必ず求められませぬ。アバウトメントハウスも田園を恣に奪掠し去ることはできません。住宅の理想は、雑多な論議があり得まし

ても必ず低階の一軒別の建築であるべき筈であります。アパートメントハウスの完備されたる利便も、田園住宅の不自由に到底及ばないであらうことは、こゝに言ふ眞の文化人には説明をばふいて理解され得べき問題です。論争は畢竟空しき論争にすぎませぬ。アパートメントハウスの如きは畢竟過渡期の一様式にすぎないことは安易に是認さるべき常識であります。住宅建築の明日の文化的完成の理想は、疑ひもなく、こゝに言ふ意味の田

園住宅の完成を以て成就されるでありませう。人間性の輕視の等閑視とは、斷じて、人間の樂しんで住むべき人間の住宅を完成することは脱きないでありませう。住宅は石のための住宅ではなく。所謂技術のための建築でもありません。住宅の住宅としての本態は、人間の人間としての本性とをの規を一つにすべきものであります。眞の文化の勝利は人間性の勝利を意味します。

□變つた處で適切な催し□

日本園藝會が本月の十日から十六日まで、造園講習會といふ變つた處の催した、大阪市北區堂ビル中山文化研究所でやる。斯うした趣味的なそして實用的な講習は、先づ近來のよい思ひ附きである。吾人等建築界に在る者は亦一段と雙手を舉げて賛同すべきである。

春の野から

— M の言ひ 草(續) —

偏 心 圓

僕が生命が始めて現實に此の肉身を得た時慈しみ深く勞はり成長さしてくれた自然は春だつた。その故か、今だにイライラした氣分に脅かされる日が多いこの春が、何となく懷しくて堪らない。まして、大きい高い建物を澤山に建て並べるのを尠くとも繁榮と考へ違ひをしてゐる現代日本の都市に生活してゐる僕等の仲間が、廣々と展けた春の自然の風景を憶がれるに不思議はない。工場に働く筋肉労働者、ビルディングに働く智識労働者もそれは同じことであり、中之島や天王寺の隅つこに申譯けばかりの櫻の花が都會の春を報したとて、埃りのスクリーンを透した春の陽光は依然として鈍重に混濁し、あざやかに性慾をそそりたてる許りである。流石に其處では春を我物顔に浮れ

歩く階級の人達が見當らないけれど、近頃メツキリ殖へだした春を獨りで背負つて立つてゐると言はぬばかりのケバケバしい都會女の有閑階級や、其保護者であるより有閑な階級の人達に到る處で出會ふのには閉口する。彼等の春は、永い冬の間抑壓を餘儀なくしてゐた自己主張の意識を充分に満足せしめむが爲の春であり、見なのである。孰らにしても都會人——紳士階級及小紳士階級の春は花見運動會に事よせて彼等が感情の病的満足を得ようと努力する機會の多い季節に外ならない。それは文明病患者が有意識的或は無意識的にする病的現象の對社會的主張である。

併し、他方では斯様な病的能動に引かへて美しく晴れ渡つた春の日曜日にさへ、無爲に時を過

す都會憂鬱病者といふのがある。優柔不斷に机に倚つて、讀書をするのでもなく遊ぶのである。でもない。それでゐて尙ほ落着かれない或種の現代病者のことである。結晶のやうにキラキラする光と空氣の融合の中に、ゆるやかに身と心の自由を與へられる心持ちは春が僕等に齎す尊い贈物であるのに――。無論、彼等はそれを充分に知つてゐるのであらうけれど、其身心の過勞が禍ひしてゐるのではあるまいか。僕等には彼等の優柔不斷が怠惰からのみ生じた結果だと非難したくない同情がある。彼等は自分の病的を棚に上げて『自然は正しい』等と得意になつて語らない。彼等は今年も正しく廻り來たつた春に面して、虚偽と奢侈に陷り易い人間を反省し其の矛盾と強制の甚だしいのに當惑し疲勞してゐるのである。けれども彼等もやはり文明病患者である。身心を浸蝕されつつも尙ほ都會讚美と小紳士の感情を否定し盡す力が缺乏してゐる。しかし、機械の響や都會の雜音に尖つた神經の持主達は、此正しい自然の公平な贈物を見ては狂喜し浮れ出さないでは居らないのであ

る。正直な彼等は肉體と神經の極度の麻痺を除いて外に、些も忘我の歡びを享ける餘裕が許されてゐないのを痛感してゐるからである。鳥歌ひ蝶舞ふ花爛漫の春も、樂しかるべき現實の生の悲惨なにじみに傷つけられてゐる。實に彼等は救ひを希ひ美に親てむには餘りに身心を虐待してゐる。それも自分の生命を護るだけのために餘儀なくされてゐる慘めな自己の虐待なのである。

ふと杏の花の蔭に横たはりながらの僕の聯想は急に寧樂の都の遠い昔に還つてゐつた。

國勢を傾け重い負擔を國民に課してまでも、君主の權威と佛教の隆盛に盡した、東大寺建立當時の情態が思ひ浮んで來た。君に仕へるを至上善と思ひ、佛の因果應報を現實に頼むでその苦役に甘むじてゐた當時の國民が、定まれる運命と諦め乍らも愈々迫まる經濟的窮迫と苦痛に幾度びか悲惨な身心の脅迫を忍むだことであらう。彼等の唯一の信仰は其度び毎に益々切實さを加へ當に深刻の極に到らむとしたとき、大佛開眼供養の嚴肅な式が盛大に舉げられたのでなかつたか。此様にして

佛の讚美は最高頂に達し、國民の窮乏は數多の脅威を伴つて深淵の暗い苦惱の底に沈むたのであつた。死の脅迫はまざまざと國民の眼前を住來した背に腹はかへられない生存本能の閃きは、彼等をして竟に其の應報を現實に願はしめた。けれども權威の強壓は冷たく、與へらるべき救済は只その嚴格な道を指し示して、死後の十萬億土の彼方を教へるにすぎなかつた。

竟に僕の聯想とその獨斷は是まで到達した。併し僕には、花と若葉に彩られた南大門を透して大佛殿の屋根の輝けるを見るとき、何時も君主の權威と經卷の教の力を直感し得、雨にぬれる境内を訪れるとき、遠く此の偉大なる大佛殿を拜して極樂往生を祈念し現實の苦痛に堪え忍ぶ彼等の聲が聞へてゐるやうに感じられるからである。

靜かな杏の花の蔭は何時の間に遠く彼方にのびて、大和の丘と原はもう鈍い光に映えてゐた。妻を正しく並べた此邊の村の家が親しみの濃い黄土色に反映するのが若葉の木の上に隠見して、今逆光線に判然と輝いた當麻寺の暗紫色の屋根と相對しながら、廣い丘と原は夕暮れの律調を奏してゐた。それは工場の機械の響や、街路の電車の軌りの基音のない、色と光のみの律調である。僕等

都會人には到底も寂しくて堪えきれない律調の靜けさである。

歴史に残る古蹟の美は、確に此の自然を基音として表現されたものと僕は信じてゐる。僕等都會人にはそれらの古蹟の美しさから美の多様の一面である、静けさの美のもつ寂しい緊張の強調を深く感ぜしめられるのが特に懐しく喜ばしいのである。幾度びも繰返すやうに僕等には機械と動力の基音が有意識的に、或は無意識的につきまとつてゐて、高い文明が生むだ科學の便利を甘享してゐる徒である。だから、僕等が求めてゐる美しさが同時に動によるの美であることを思ひ到らずである。勿論、その基音は工場の機械と都會の騒音である。或る人達が主唱するやうに其れ等の騒音は、何も呪はしいものでも嫌厭すべきものではないと考へる。

往昔の静けさにみる美は、過去を懷しむ柔かな心の慰めである。いたづらに、それに愛着するのは戀愛の排他的であるやうに、より大なる使命を忘れしめ感傷に犯される憂がある。儀等はより完全の域に進みゆく文化に協力しなければならぬ。現國の虚偽と瞞着のうちから、休みなき脅威の下から、僕等は僕等のために僕等の所有物たる藝術を創り出さねばならないのだ。(未完)



斯の明るい氣持のよい部屋は、皆さんのご自由にお這入り被下つてよいのです。そして皆さんの豊穠たる氣焔の安全瓣に御使ひ被下つたり又はご相談事や、ちつと與太やユーモアの一つも飛ばして頂くも結構です。併しお見掛けの通りに部屋が陰いですから、成るべく多くの方に機會を均等にしてお頂くため、餘り長いお話はご利用被下い。勿論ご品格を重んじてのお話しに願ひます。(係)

人間は自己の眞價値を知らないほど、善い意味に於ても、悪い意味に於ても、それは悲哀です。悪い意味からしませば、努力と能力の有リッだけを竭して眞面目に自己の境地を切り開くことをせず、たゞ他人の勘定と當て推量とに年中没頭ばかりしたがるものです。陰險と小刀細工は得て斯うした手合に在ります。大きな境地を闊達な氣宇を以て達觀しなれば、その人の前途はいつまでも碌々たるものです、まあ一精々自分の埋る穴をお掘りなさい、ご同役奈何でゐる?、(七生) ▲日本建築協會の例會での講演は、建築家の團體だからとて、何もう建築の事許りに限つた譯ではありますまい、どうです?、少々形而上的な問題殊に思想の問題、或は哲學の問題などで大いに人をお集せになりませんか(浪漫堂主人) ▲東京に建築材料博覽會とか展覽會とかいふものが出來ましたが、日本建築協會は此の際耐震耐火建築博覽會といふようなものを拵へて文字の示す通り耐震構造から耐火構造やその材料、外國の諸種の見本から模型や圖面などを蒐めて、大いにその鼓吹をした。ら什麼ものでしょう? (鈍太郎) ▲建築大學の設立さやらを御計畫のことですが、それは一體どうになりましたか伺ひます(一會員) お答します——それは目下攻究中で、その實現はまだ餘程先きの事でしよう(係) ▲味噌の味噌臭きは何さやらで、建築家の建築家臭い事や藝術家の藝術家臭のあるのは、堂を去ること甚だ遠いですナ、縞の羽織が紋附き以上の氣品を發揮する處に、ほんさうの妙味と眞價があるのです、履き違への夥くないのは日本のお爲じやおまへんぜ(白眼郎) ▲建築を中心とする處の凡ゆる團體が合同して、何か一種のデモンストレーションをやつたらごんなものでしょう?、差し當り日本建築協會邊りで具體案を作つて如界に問ふて貰ひたい、案次第では大いに貢獻が出來ます(妄想狂)

煙の巷から湖の國へ

郊

邨

―な振りの巻―

『どうでしょう？、八時のには改札は駄目でしようか？……』『エ、あの通りですから、改札を中止しました』そいつは困つたナ、わたし達は汽船へ乗るのですが、此の八時ので往かない間に合はないんです。改札を何んとかして貰へないでしょうか『そいつはいけません……縦むばお通した處で、ブラットの方はあんなに込むでゐるのですから、とても乗れませんよ。』

× × ×

雨と氣候の不順で、あたたら、花季を今歳ばかりは抜きになりそうであつた彌生も、四月の第三の日曜日頃には、すっかり息を吹き返して、残んの櫻は褪せたれど、尙ほも其處此處に一むらの雲を畫き、うす紫の房を風に搖がして、さながらの櫻絡を懷はせる藤花は、今を盛りに、开が中にも

をちこちの森や野や山裾には、早や新緑の隈取りに初夏の氣分を唆りて、但く春の名残りを惜むは今が最期と、出たも出たりな、斯の日梅田驛の内外は、人の山といふは事ふりて、人の海嘯とでも形容してよい有様であつた。八時の上り待つ客はあの廣いブラットを陸橋下から西の端し西成線のブラット近くまでも、ぎっしりと詰め込むで、何んの事はないブラットといふ巨大な樹へ、少しでも搖がさばこぼれ出そうに盛り込むので、列車内の悲鳴と、不平と、乗るときの一種の暴動化を、さこそ憶はれて、それだけ既に、春郊一日の行樂は大變なお難行に畢つてしまつた。

上りのブラットがそれであるに、下りのブラットは、金釦と磨き立つた靴の驛員が、けふの凄まじい狀景をも他所事のように暢ん氣そうに闊歩する外、迷ひ犬の一疋も居らない、がらんとした静け

さ。改札口の柵を堺に、掛りの驛員クンが、安宅の關守よろしく、眼を光らして、關破りを喰ひ止めてゐた。待合室は何處も人の渦巻きで、金釧の關守クンを罵る聲や、柵越しに上りのブラットを恨めしそうに眺めて、人の濤に、自らも一波小波となつてゐる人達で、誰やらが『風流とは扱ても寒きものにて候』とか云つたように、『花見とは扱て々々膏汗の多分に入り用のものにて候』と嘆つたことではなからう。

待合室から改札口の柵で堰き止められてゐる人の波は、驛前の廣場から、電車線を堺に、此處まで流れ出で、それが亦、刻一刻と人の水がさを増すのだから、凄じくも怖ろしい光景であつた。

此の日、〇〇〇〇會關西支部の春季大會を琵琶湖巡りでやらう、といふのであつた。その會務の守を承つてゐるわたくしは、一ヶ月前から行程のプランを立て、それを例會の認容から實地の檢分、豫定の行動に寸分ぐれは、まあるべからず、と心算に自ら持み、扱ても當日爽快から仕度を爲て、七時といふに梅田驛に驅け着けみれば、件の

光景に、啞々と暫し立ち慄むだ。人波の中を抜き手切つて、其處此處と泳ぎ廻りつゝ、一行の人達を目附け出すのが、却々の難行であつた。

やつと〇氏を目附つた。暫し、あちらこちらと泳ぎ廻つて、YさんとMさんを尋ね當つた。そうこうする中にS氏が來られた。N氏も參られた。同行の寫眞技師と、大阪俱樂部のボーイも目附かつた。——その外に、まだ二三の方が來られる

筈だつたが、最早や發車に二十分許しかない。よい加減に見切りを附けて、まったく、生命がけで一行の乗車券を買つた。最早や十五分しかない、十分しかない。五分しかない。それなのに八時發の上りが這入つても來なければ、例の一種の響きを有つてゐる改札の知らせもない。相變らず改札の關守クンは、阿鼻叫喚の混雜も、一日の行樂がぐれは、まになることも、开廢事は俺れ達の知つたこつちやない、といふ頗るの泰平振りで、却々改札の氣配もない。八時發を外したら、豫定の大津發十時のみどり丸に乗れない。いや、乗れない許りならまだしもだが、大枚百貳拾圓を投げ出して借

り切つてあつた家族室が、ふいになるのだ。いやそれ許りではない、京都から參會される筈のK博士やT博士、さては神戸方面から來られる二三の方との聯絡が切れて畢う。――舞臺は前へ戻るが、茲に於て、前に書いたような我れながら愚問答を改札の關守クンと交はしたのであつた。

少々前後するが、是からの幕の筋書きに興を添へるため、此の日の行程のプランをお目に掛けて置かう。

一、午前八時大阪驛發（上り一二等待合室に集る）

二、同九時十八分大津驛着。

三、俾で太湖汽船會社棧橋に到り、直ちに、みどり丸貴賓室に入る。

四、午前十時みどり丸出航。

五、みどり丸は沿岸『唐崎松』を望見し、『阪本』『壺田』『和邇』『木戸』を経て、午後零時半『近江舞子』に着。三十分間上陸。

六、午後一時『近江舞子』を發して『竹生島』に直航、午後一時三十五分着。一時間上陸。

七、午後二時三十五分發航、『竹生島』を一周。

八、一週後直ちに飯航に就き、さらに『多景島』を一周し『白石』と『沖ノ島』及『長命寺』間を繞ふて、午後六時二十分大津へ飯着。

斯ういふ豫定であつて、寸分間違ひ無しの極印を押したのであつた。そうして飯着直ちに自動車を京都の『都ホテル』へ飛ばして、晚餐後此處で解散といふ段取りであつた。

× × ×

『京都へですて？……天満橋でムいますか』

『京阪じやないのだよ。京都へ往つて貰ひたいのだ……場合によつたら、大津へその儘飛ばして貰ふかも知れないよ』『へい！京都へですか、そいつは往けません、途中がどうなつてゐる判りませんから……』『途中で行き止つたらそれまでの事サ汽船の都合もあるのだから、ハイスピードで、往ける處まで往つてくれ』『、、、』『怎うだい。そういふ中に時間が経つから、兎も角往つてくれよ』運轉手は助手とこそ／＼相談してゐたが『それなら往ける處まで飛ばしてみましよう！』

斯うした押問答が、梅田驛頭の或るタキシードそれに乗り込んだわたし達との間、ガッリンの爆音裡にシート内外から交はされたのであつた。八時の上りには到底駄目と見切りを付けて、早速に自動車で京都まで飛ばし、時間の都合では京都から電車にするか、その儘飛ばすか、多少窮餘の策であつた。

寫眞技師とボーイとを合せて一行八人、二臺の自動車に分乗して、梅田を新道交叉點へ、左折して天満橋から京街道に出で、淀川堤を一直線に飛ばした。

熱踏と雑音の巷の過ぎて東へ、「守口」近くからはまったくの田園だ。氣早いのは既に新緑の衣更へをしてゐるが、菜花は眩ゆくような黄金色の絨壇を延べたがよう、今が盛りの最中であつた。鈍紅や乳白の躑躅、さては薄す紫などが新鮮そのものゝよう、萌へ出る生命そのものゝ如き新緑の中に點綴せる風情など、往く手の焦燥をもいつしか忘れて湖水巡りが、飛むた田園旅行となつた、人事の滑稽にして亦悲惨な賽の目が此處にも出たのだ。

紺碧を湛へたように晴れ切つた空、四月は最早や未だが、尙ほも残んの春郊の香いは強い。そうした景趣の中を、ひた走りに走つてゐる我等の自動車は、幸に途も良く、スピードも相當出てゐる、前途に氣懸りな淡い不安の裡にも、まことに以て輕ん氣なものであつた。けれども、何んだかおつかふせられたような氣持ちで、前途を凝視し氣分であつたわたしは、運轉手に耳打ちした。

『どうだらうか、此の先きどの位で天津まで往けるだらう?』そうですナ、ご覽のように迂回の多いの、牛車などの頻繁なのと、どうもビートの調子がなくないですから、まだ二時間以上掛りましようナ』

時計はまさに十時半だ、此の分では大津着午後一時、萬事休す!。大いにブライトを有つてゐた筈である前記のプログラムも、茲に於て根底より顛つたのだ。まったくの處、わたしは心竈に悲鳴を擧げた。

車はでこぼこ途を、何んのことはない撥條仕掛けの人形のように、時々撥ね上げられのご難行に、

シートへ努めて重心を置ふとする身構へは、甚だ以て興醒めたものであつた。

斯うした中にも、車は枚方堤を一直線に、淀川の緩流を左手に俯瞰して、東へ々々疾驅した。どうせ汽船の間には合はないと判つてゐても、現在此の一行以外の參會される方と、殊に京都よりのO、T二先生の聯絡が、今の處ぶつとりと切れてゐるのだから、そいつが大層氣になつてならなかつた。間に合はなくとも、前途は一分間でも早く着くよう心竊に焦せつてゐた。——然るにだ、今日の旅行幸ちを何處までも災されるのか、亦も此處に、往く手の、ご難が湧いて來た。これは我前頭の自動車が枚方へ二十分程の堤防で、眞空球の破裂するような音を立て、タイヤを破つたのであつた。

後に續いてゐた僚車も、斯のバンクで立往生した。苦々しい面持ちと、ぐれはまを嘲けるような哄笑は、期せずして擧つた。そして『怎うせ幾ら急いだつて間に合はないのだ、恰度時刻もよいから此處で辨當をやらうじやないか』といふ提議が

口々に起つた。堤防の芝生に飛び降りて、やれやれと自かじし背延びをしたり、腰の邊りを擦つたり寝轉んだりした。軈て、ボーイが持參の折詰から、サンドウヰッチを配つた。——天氣は朗で鼻の先きを應揚に流れてゐる淀川の景色も佳い。サンドウヰッチの一片れを頬張つて、静けく濶大な斯の情趣の裡に足を投げ出した氣持つたらない。

此處には亦、开應揚な場面を他所事に、運轉手と助手が總掛りで、タイヤの取替へに頭から湯氣を立てゝゐる。約そ卅分許りも掛つて、やつと修繕が出來た、亦も箱詰めになつて走り出した。どうせ間に合はない乍らも、やはり心掛りなのは、先着の人達との聯絡であるから、走りつゝもわたし達の中では——多分次の箱でもをうであつたらうが——何處かで太湖汽船會社氣附けの電報を打つては、といふことになつて、幸ひに枚方を通過するから其處で電報を打つことになつた。我等の自動車は軈て枚方に這入つたが、此處でも亦まごつきが始まつた。

『此處に郵便局がありますか』『へい郵便局だし

たら、餘り來過ぎておまつ……此の町への西の這入口だす』車は僚車を描いて二丁許り後戻り。けれども郵便局を見當らない。亦もお百姓と問答を始めた。

『此の入口に郵便局があるそうですが、何處ですか』郵便局だつかいな、それは其處に足袋の看板がおまつやろ、そこだッ——五六軒亦後すぎりして、郵便局といふのを見れば、何んの事だい、郵便切手を賣つてゐる雜貨屋さんだ！

愈々以てのへま振りに業腹を煮やしたが、さて在るべきでないから、聊か莫迦氣氣味を覺へながら、その雜貨屋さんに訊いてみたら、郵便局は反對の東の出口であつた。——輕業師の口上ではないが『車は元へど後戻りど心座い！——三丁許り逆轉して、やつと目附かつた。

漸く發信を濟まして、聊かおつかふせ氣分が薄らいた。車は何んだか向つ腹氣味に聞へる爆音を立て、亦もひた走りに走つた。馳て幾多の村里を過ぎ、八幡の石清水を右手に、山崎の古戦場天王山を左手に、澱江の長流を俯瞰しつゝ、そのか

み淀の川瀬の水車と千兩松の名高い淀の古城趾を目當てに、その長橋を越へて、まさに淀町に指し掛らむとするとき、亦もへまが起つた。それは、僚車が機械を傷めてパンクしたのであつた。

今にして懷へば、梅田驛頭、運轉手クンが『へい——！京都へ……？』と聊か驚き振りを示したのは、當にぼろ車たるの籤を成したのであつた。それで大いに暴る點に於ても、同様に籤をなしたのである。俄か作りの鐵工場が出来て、追にぼろ車の用意周到、數々の道具が取り出されつ、捻る、叩く、削る、擦る、此處に運轉手と助手四人の總掛りで、恐らくは時間に超越氣味な修繕工事が始まつた。

同様に、最早や時間超越の因果腰を決めたわたし達は、車内で瞑想を極め込むのやら、是も老い春の氣分を味ふ一つだと車窓に臂を衝いた底悟せるのやら、草原に降り立つて逍遙氣分をステッキの尖で、罪の無い草花から突つき出してゐる人など、此處でも縊縊車のお陰で上下動の苦難から、三四十分間休息が出来た。漸く修繕が畢つて亦も

ひた走りに走つた。中書島——伏見——鳥羽——

斯くて、洛西『東寺』の五重塔が見へ出した。車は塔を目當てに、そして、肥料を運ぶ車や柴を積んだ牛車や、行き交ふ人の、遠は京の落ち口だけに混雑する中を、右折左廻、ストツプ、スロー、えゝ何んとなりとなれ、午後十二時まではまだ十時間以上あるぞ！。

『何處まで行きましょう？』運轉手の言葉だ。京阪の三條だ……都合では其處からその儘大津へやつて貰ひたい』わたしはかう囁いだ。——車は市電の軌道を辿つて東へ東へと進むでゐるが、三條へは、何んだか變だ『オイ！三條へはそれでゐるのかい』ヘイ……』といゝつゝストツプした。怎うするのだらうと見てゐると、飛鳥のように助手が飛び出して、その交叉點に立つてゐるお巡りさんに何かばしや々々諜つて、頻りにお仕儀してゐる。纏て歸つて來た『オイ、怎うしたのだ』『ヘイ、あの三條へ往く方向を尋ねました、ちよつと來過ぎた様でゐいます』助手はかういふて叮嚀に頭を下げた。運轉手はテレ臭いような面持ちで

むつ、つりとしてゐた。

惜い事には斯の車の車體番號を見て置かなかつた。斯うも徹底したぐれは、ま振りには、車の番號が『大四九四六』(オウイニシクジロウ)とでもあつたのか知らず。

兎角して三條の京阪停留所前に着いた。一行は一旦車から降りたものの、此の儘大津へといふことになつて、その車で三條を一直線に東へ飛ばした。

今までやつて來た京街道は、大して感興のない平凡なものであつたが、此處からは、まったく山峽を穿つて往くのだから、幽翠と靜寂と、そうして鮮澄な氣分は、京街道の肥し車と、野畑の送迎の比ではない。自動車で三時間といふ行程が、二十分許の前途に縮まつて、多少此のへま問題を兎にも角にも解決が出來たといふ心理からでもあるまいが、大津までの二十幾分は、まったく環境の風物に會心した沈ち着き振りを覺へた。

行程三十餘哩、幾多のへまを發揮して、勸進帳の文句ぢやないが『大津の浦に着にけり』——斯く

て越し方を願れば、みどり丸で湖水廻りの、段取りが、大阪と大津間の國道見物になつて畢うた。S氏の曰くに『是もよい事だ、我等の一生涯に態々斯うした國道見物は、まあ、ありますまいナ』とさ。

みどり丸も、近江舞子でそれに接續する白石丸も、もとより夙うの昔に出航してゐる。太湖汽船の重役や事務員達は如何にも氣の毒そうに一行を迎へた。聞けばO博士とT博士のお二人だけ、みどり丸で往かれたとのこと。そして、後發の白石丸を態々一行のために五六分間遅らして待ち受けた事や、一行が途中から打つた電報を、早速に近江舞子の船扱所へ電話して、O、Tお二人へお傳へすることに取計ふた事、大阪や京都の驛では、恐ろしい人出で窓から車内へ飛び込むような混雜だといふことを聞いたから、一行の乗車が難しいだらうと思ふた事やら、大阪驛八時發の列車が京都驛で故障が出来て取消されたとの通知があつたこの事などを、手ツ取り早く話し、

『といふような譯で、まことにお氣氣さまでムい

ますが……、是から、みどり丸の歸着までお待ちになるのも大變でムいますから、何處かでお仕度でもなさいましたら怎麼でしょう？、』

『そうですナ。何處か風景の佳い處へ案内して頂きますようか知ら？』

『そうなさいませ。幸ひ此の全市から湖面を見晴すに一等よい場所がムいますから、そこへご案内致しましょう』エ、そう願ひましょう』斯うした話がS氏と會社の重役某との間に交はされ、一行の爲に會社から態々小使さんを貸されて、その重役君自ら一行を案内された。

市街の南東に巍ゆる山腹の『高觀音』といふ古びた寺がそれであつた。重役君と住持との間に何か押問答してゐたが、住持から懇ろに迎へられて、寺の一室へ請せられた。

なるほど頗るの景勝である。直前に大津市街を瞻看して、大洋の様な湖上を市街越しに見渡し、まツたく眞帆片帆の點在してゐるさまは、まさに絶勝である。寺域の内外に、まだ咲き誇つてゐる櫻も少なからずあつた。その間を掛け茶屋の赤毛

氈と盆灯が彩つてゐるなど、いつもの型の通りで平凡のやうであつても、斯うした景地には、それが新しい覺へられた。

先づ何よりもとボーイが持參の折詰めを配る、ナイフとフォークを分ける、ビールとサイダーを注いで廻る、會食が始まつた。飲む程に食ふ程にそうして一望の勝景に會心の微笑を漏らす外、大して話もないけれども、謂はゞ皆んな内端の方である、話のはずまない處こそ、大いに話してゐるのだ。聽て食事は果てた。自動車のご難行に聊か疲勞氣味でもあつたか、ビール瓶と座蒲團の早速の枕で、そこに酣聲を漏した方もあつた。

眺め、飲み、喰へば、後は欠伸だ。まツたく其れから約四時間後の六時二十分迄みどり丸の歸着を待つのも遣る瀬がない。全一行のために記念の

×

寫眞を撮る筈であつたのも、今は僅に六人だけ、先づ寫眞を撮り、それから先きは自由行動として六時までに汽船會社へ集らうではないか、といふことになつて、早速に同行の技師クンが立つた。三脚の前へ列むだ。他の事は怎うか知らぬが、背景は恐らく絶好な場所であらう。

寫眞は濟むだ。それからはお約束通り自由行動といふものゝ、大して興味が無さそうであつた。再び元の室へ腰を卸したが怎うだ？ モーターボートでみどり丸の歸航を迎ひに往かふではないか、といふ議が起つた。早速に近所のお稻荷さんで電話を借つて汽船會社へ掛け合ふた處、二十分間許して棧橋へ廻すから早速往らツしやい、との返事であつた。——是からが『ボート』の卷だが、いやになつたら亦の機を見ての事にしよう。

×

×

役員及職員

副會頭	片岡 安	編輯係	江村 郊郎
理事長	池田 實	庶務係	西谷 節
主計	中澤誠一郎	會計係	田村 春松
主事	中村琢治郎		大和 榮衛
同編	松本 馮象		
同輯	佐藤 彰美		
同理事	伊藤 正文		
同理事	田中 綱		

會員	三二九	會員(地方)	一二一
名譽贊助員	八六	終身贊助員	五七
特別贊助員	三二	普通贊助員	五〇八
合計	(現五月二十日在)		一一三三

本誌及廣告料定價表

本誌	冊數	定價	郵稅	廣告	種別金額
一冊	七拾五錢	貳錢		一頁	拾五圓
十二冊	九圓	貳拾四錢		特別頁	毛料金一定
				シアリ御照會アリ	

大正十三年五月廿八日印刷
大正十三年六月一日發行
(每月壹回一日發行)

發行兼編輯人 江村 恒一
兼印刷人

印刷所 大阪市内淡路町二丁目廿一番地
大阪活版所

發行所 大阪市北區堂島濱通二丁目一番地
堂島ビルヂング

日本建築協會
電話北四二九一番
振替口座大阪三九九七五

大阪市内西區京町堀羽子板橋北

特約販賣店 柳々堂書店

電話(土佐堀二四四〇番)
振替口座二〇八四番

會 告

豫て原稿整理中の關東震火災視察報告書は既に完了しましたから不日出版致します凡ての事は廣告で御通知申上げます

日本建築協會

日本建築協會々報

△會場 本協會會議室

△出席者 池田理事長、中澤理事、中村理事、松本理事、本多理事、伊藤理事、田中理事

△議事 一、春季大會決算報告

一、第四回講習會決算報告

一、三月分會計報告

右何れも中村主計理事より報告ありて承認のことに決す

一、設樂理事辭任申出に關する件

理事(主記)設樂貞雄君より四月二十六日付を以て辭任届提出に付協議の上同意することに可決し五月例會に於て補缺選舉を行ふことに決す

一、會則一部變更(評議員制を設くること)の件

本件は大體に於て認むるも本年末迄保留のことに決す

一、其他の會則一部變更の件

左の通變更することに可決し五月例會に附議することに決す

1 特別發助員の贊助費金九圓を金拾貳圓と改むること

2 會員に入會するに際し紹介者五名以上要するを貳名以上と變更すること

一、理事會内規一部變更の件

理事會内規の一部を變更し直に實行することに決す

一、役員出張旅費規定一部變更の件

大正十年九月二十日理事會に於て決定の役員出張旅費規定一部を改むることに可決し即日實施のことに決す

一、其他左の件々に付協議する處ありたり

1 會員、發助員の行先不明者取調の件

2 神戸高等工業學校へ物品貸與の件

3 五月例會に關する件

4 理事會定例日に關する件

5 會員發助員の雜貨廣告料割引に關する件

一、會員銓衡

○理事會

△日時 五月十三日午後五時三十分——七時

△會場 本協會會議室

△出席者 池田理事長、中澤理事、伊藤理事、本多理事

△議事 一、五月例會に關する件

五月例會に關し左の事項を議決す

1 日時 五月十九日(月)午後六時

2 會場 中山文化研究所講堂

3 報告 教化委員會經過報告

春季大會報告

4 選舉 理事補缺選舉執行

5 議事 會則一部變更の件

一、入會金免除期間に關する件

入會金の免除期間は茲に本年二月例會日より春季大會(四月十二日舉行)終了後一ヶ月間と議決しありしも協議の結果五月末日迄延期することに可決し會員(其旨通知し期間中最後の勸誘を依頼することに決す

一、堺市主催都市計畫展覽會(物品貸與に關する件

右は運搬費の都合により貸與することに可決

一、諸委員會開會に關する件

近時各委員會は全く杜絶の有様に付細則第十一條第一項及會則第十六條第二項の條項を勵行せられたる旨を各委員長に通報することに議決す

一、尙左の件を議決せり

1 震災調査報告書を早く出版するの件

2 近時雜誌に誤植多きを以て適當の方法を講ずるの件

一、會員銓衡

△臨時理事會

△日時 五月十九日午後五時——六時

△會場 本協會會議室

△出席者 片岡副會長、池田理事長、中澤理事、中村理事、松本理事、本多理事

△議事 一、本田理事辭任に關する件

理事(編輯)本田登氏は社務の都合(東京在勤)を以て今同辭任申出でられしに付協議の上同意することに可決し同氏の補

六地

矢崎 高儀君 大阪市阿部野橋西市立市民

○住所、勤務光移轉

大林組東京支店

左谷米三郎君 大阪市東成郡天王寺村字馬
江三〇七三
杉田新五郎君 大阪市北區上福島北一丁目
二五
吉本新之助君 東京市牛込區榎町一櫻井方
榎藤 要吉君 東京市外千駄谷町穩田一七
三
服部 逸治君 東京府下王子町堀之内三六
二佐野新二郎方
松浦 基二君 大阪市北區佐藤町三ノ一
藤野松九郎君 東京市牛込區辨天町七十六
木村邸内
森岡達三郎君 東京府荏原郡世田ヶ谷町太
子堂四六六
西川 啓三君 神戸市下山手通兵庫縣廳醫
察部建築課
辻 謙吉君 東京市丸ノ内久原鐵業株式
會社
和田 喜藏君 大連市近江町三五
澤 伊三郎君 東京市外淀橋町字柏木六二
桐原德藏方
城戸 武男君 名古屋市東區新出來町二丁
目
森 泰治君 東京市麴町區四番丁八
若林 秀雄君 東京市外大崎町桐ヶ谷氷川
神社上渡邊邸内山岡和平方
尾田 大和 富山市市立富山工業學校
北村 萬治 大阪市西區土佐堀通二丁目清
水組大阪支店內
上瀧 辨吉 大阪府東成郡城東村鳴野五六

九地ノ五一
村井季四郎君 大阪府豊能郡岡町錦通四丁
目一二九
佐竹巳之助君 東京市神田區錦町三ノ八一
山本組内
佐倉 達司君 東京市神田區錦町三ノ八一
山本組内
島本 四郎君 東京市豊多摩郡野方町下沼
袋字新橋一五七四

寄贈圖書

大阪工業俱樂部 四號 同俱樂部
通俗衛生 四號 大阪府衛生會
人々人 五號 協調會
都人 第五光 都人社
會報 第十五號 名古屋工業會
榮ある生活 六號 文化創設會
學七會月報 四三三號 學士會
建築世界 五號 建築世界社
朝鮮鐵道協會報 五月號 同協會
現代住宅 第一號 同社
建築革新 創刊號 京都建築革新會
帝都土地區劃整理に就て 工政會
建築業協會月報 四月號 建築業協會



●第七集第六号 掲載広告一覧（掲載順）

岩住金庫鉄工所

日本エレベーター製造

大野正営業所

ドーマロング商会

ミドリ商会

飾磨化学工業

大塚鉄工所

野沢幸三郎商店

瀧山商店

奥村重兵衛商店

阿部鉄工所

小山

福田製作所

原田商会

西孫南店

特許エレベーター製作所

ポール イー・サンマン事務所

田中昌司商店

二和商会

南満鉱業大阪出張所

ムツ商店

高田松太郎商店

東和商会

石綿スレート

吉岡商店

高谷商店

山本東作商店

田村商会

建築金物商会

日本洋瓦大阪出張所

金剛商会

今井硝子店

横河橋梁製作所

大平工業所

井筒政蔵商店

日本ホロタイル

鈴木商店

青木浦石材

柳生電機製作所

森川組

日本メタルラス製造所

大福海上火災保険

日本園芸会

桜興業

浅海商店

出浦建築事務所

大阪建築所

新海建築事務所

小笠原建築事務所

渡辺建築事務所

葛野建築事務所

片岡建築事務所
片岡松井建築事務所
横河工務所
横浜建築事務所
竹内建築事務所
宗建築事務所
国枝工務所
安井武雄建築事務所
柳下建築事務所
真水工務所
真水三橋建築事務所
増田清建築事務所
遠藤於菟
木子建築事務所
設楽建築工務所
茂、野村建築事務所
岡部建築事務所
前田松本建築事務所
西原衛生工業所

大阪窯業
池田勘藏
日本土木大阪出張所
大阪橋本組
大林組
竹中工務店
長瀬組
中新
佐伯工務所
野村組
久保田組
熊取谷熊次郎
山本組
松村組
藤木正一
正木工務店
小西組
鴻池組営業所
有山組

駒井喜兵衛
安藤組大阪出張所
辰巳吉之助
森本建築社
清水組大阪支店
錢高組
三光塗料塗工組
清水福太郎
山田大理石製作所
矢橋大理石商店
須賀商会
大理石工業
榮進社
松尾
山本窯業商店
萩原煖房工務所
新田ベニヤ製造所
河村青写真調製所
宇野沢組ステインド硝子製作所

品川白煉瓦

日本木材工藝

高島屋呉服店

コルク工業

ベニス工房

木下商店

城口汚水処理研究所大阪支店

東和商会

大阪青写真調製所

浜口商店

大阪耐火リノリウム工業

岩崎商業

小野田セメント製造

日本建築紙工大阪出張所

HANKEN SEISAKUSYO

高田商会

改正

関西ステインド硝子製作所

旭硝子

東洋コルク工業

川崎工場

サカイブン建築鉄工所

田中タイリング商会

桐田商会

米山製作所

東京建鉄

日本工剤

亀井商店

星製薬

淡陶

日米板硝子

田中源太郎商店

極東板硝子工業